

保存

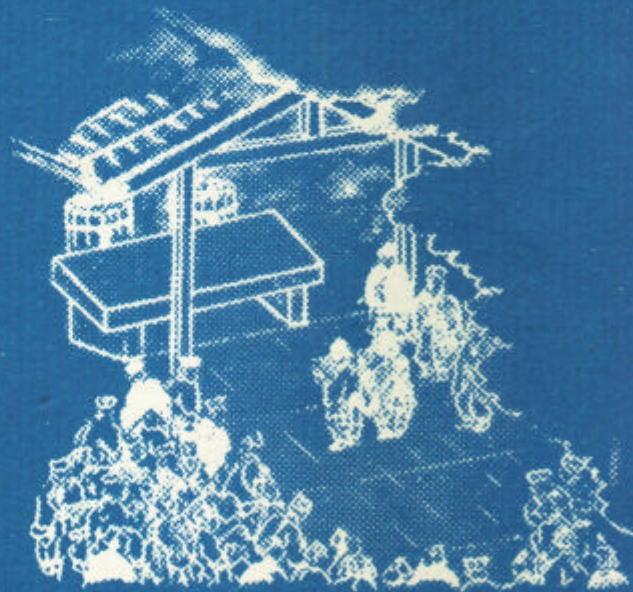
若越醫學史展

解説総目録

4.29~5.28



小浜藩医 杉田玄白訳 解体新書屏絵



福井小山谷における解剖祭

SPECIAL EXHIBITION
FUKUI MEDICAL HISTORY

正 誤 表

	誤	正
写真 37	八十一難経並図 (越前版・臯指定)	八十一難経並図
” 55	栗崎甫三より栗崎道喜宛書翰	桂川甫三より栗崎道喜宛書翰
” 86	春日家蔵 青洲先生医語	春日家蔵 青洲先生医話
” 111	減 鑑	減 鑑
本文 70	松蔭医談編者	松蔭医談序文編者
”	華岡外科の関係 若越	華岡外科の関係 若狹

若越医学史展

解説総目録

贈
呈



179 象牙製印籠根付

福井市立郷土歴史博物館編

昭和47年5月



127 キュンストレーキ男体



加賀藩購入キュンストレーキ（金沢大医学部蔵）



128 キュンストレーキ女体



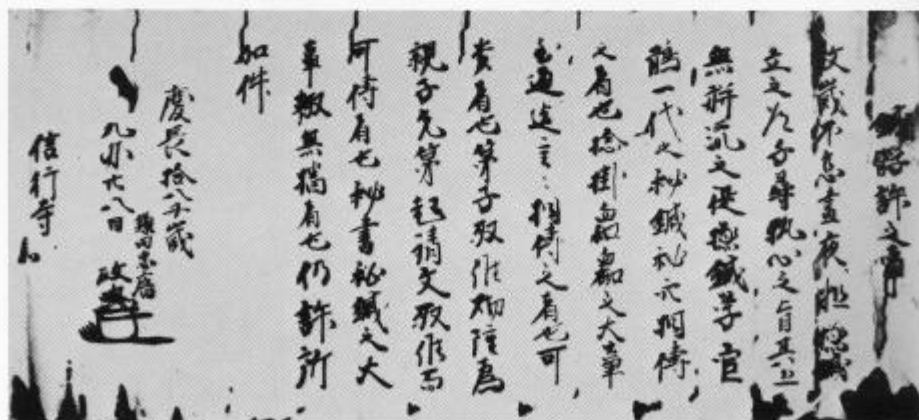
11 白 沢 木 像



21 薬師如来立像（木影）



12 元三大師御夢想灸用「すり鉢」



19 鍼術伝授書

24 神農 図（果指定）



25 三皇尊形並歴代医聖之図

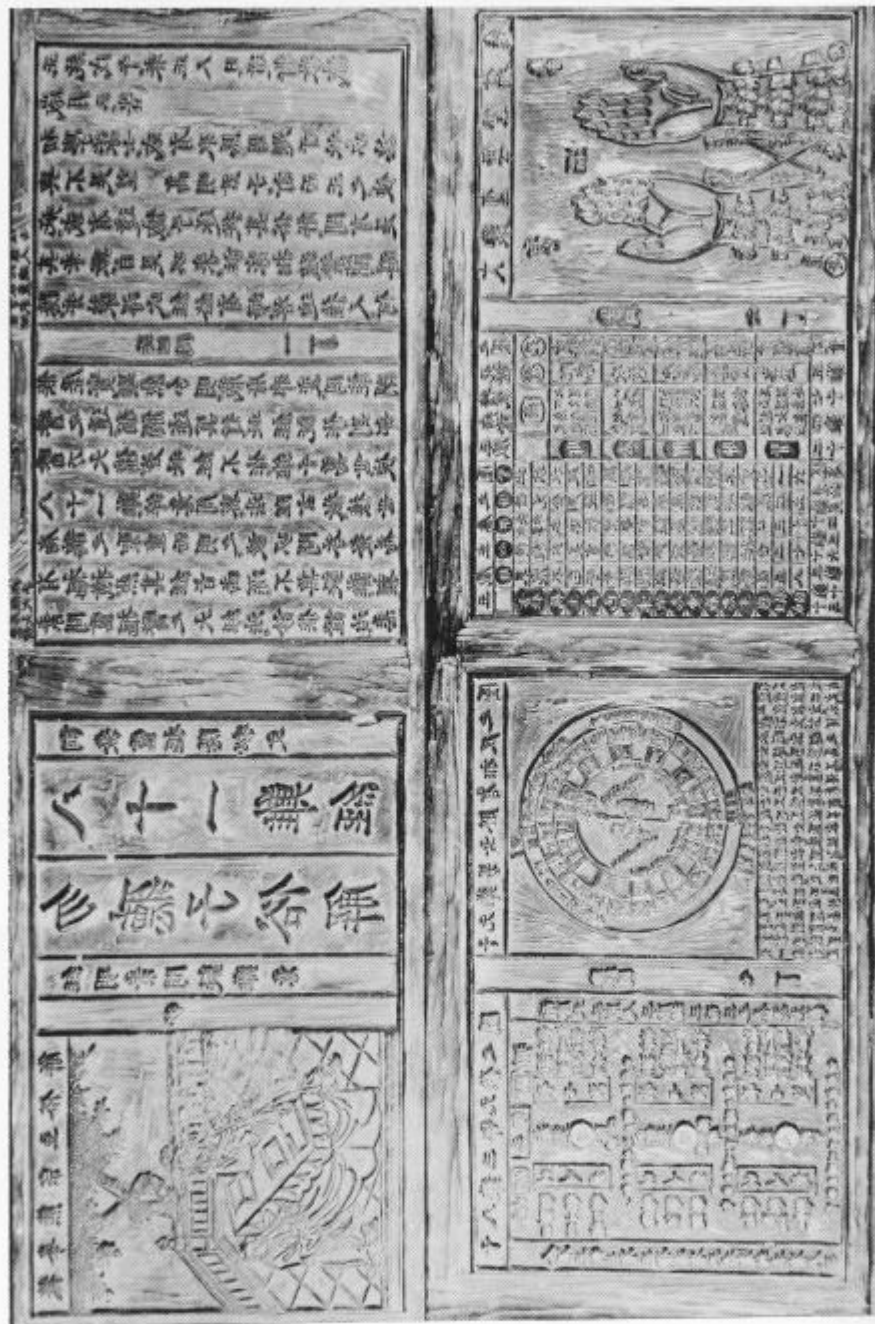


一自心脈行六寸 十息脈行六寸
 百息脈行六尺 十息脈行六寸
 萬息脈行六丈 三十息脈行六寸
 五百息脈行六丈 三十息脈行六寸
 九百息脈行六丈 三十息脈行六寸

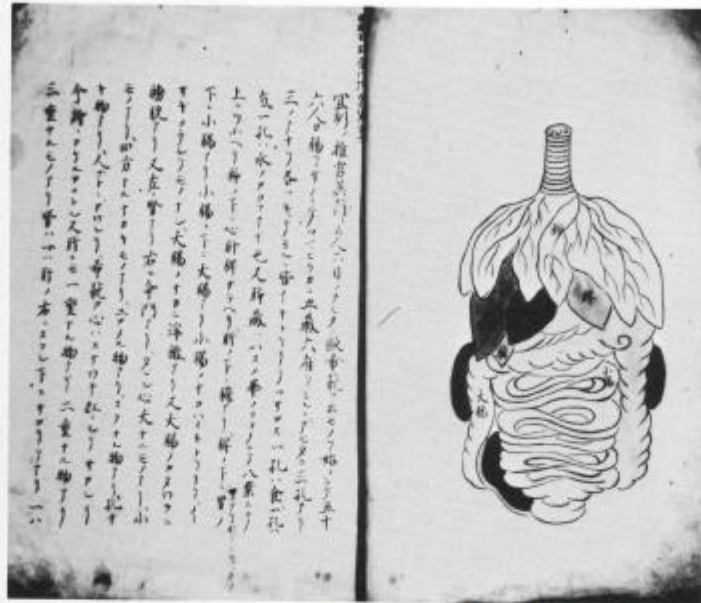
新刊勿聽子俗解八十一難經卷之一
 鳳凰山人著述
 慈寧勿聽子 熊宗岳俗解
 ○一難曰十二經皆有動脈獨取寸口以決五臟六腑之
 死生吉凶之法何謂也然寸口者肺之大會手太陰之
 脈動也肺者心之朝門也心者君火也肺者相火也
 經脈皆係生氣之源所謂生氣者十二經之根本也
 故各經皆有動脈如足陽明經脈動衝陽是也足陰明
 脈動太谿之類寸口者右手氣口也內經曰氣口何
 以獨為五臟主岐伯曰胃者水穀之海六腑之大源

經明素問疑難竟
 勿聽子俗解
 八十一難經
 詞發 醫 藥 誌 載 文

素問靈樞之大經法皆後漢治卷有經機然其經書
 無不辨疑難然為醫之重要而明之說以問本條為
 八十一難皆意用辨法理或後世醫乃大備其此經
 不若漢十萬世使醫之宜辨疑難其此經經作則亦
 既虛實顯然分明蓋其辨疑難能明非徒辨其理也
 有論難也後人知其難自是以來深蒙醫家所難
 或或有遺憾也遂從其俗解問有是與不是第 高明
 君子而正之使初學之士或有取焉因題于此以誌
 歲月云爾
 正統戊子春江人且道軒敬識



39 八十一雜經版木 (果指定)

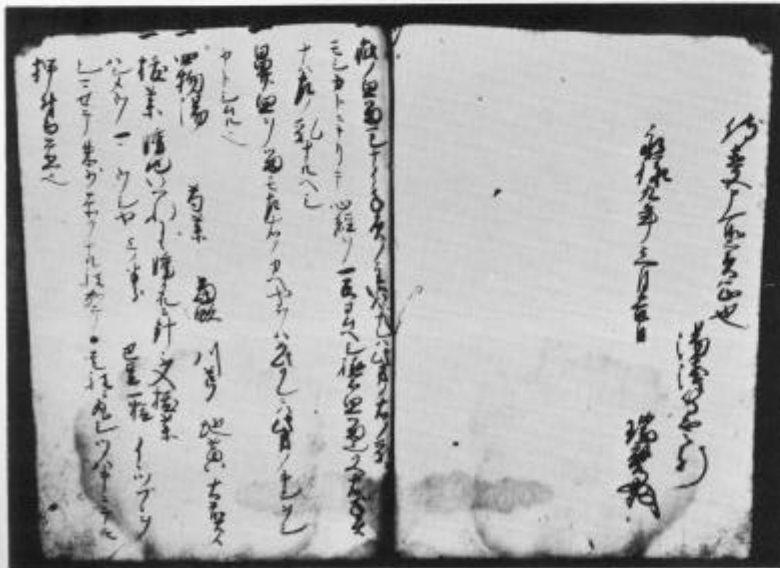


第一丹と起州一し葉谷
 柱一伯前お傳く本也
 廣長十五度
 以層打少身と長
 上
 追若信法書

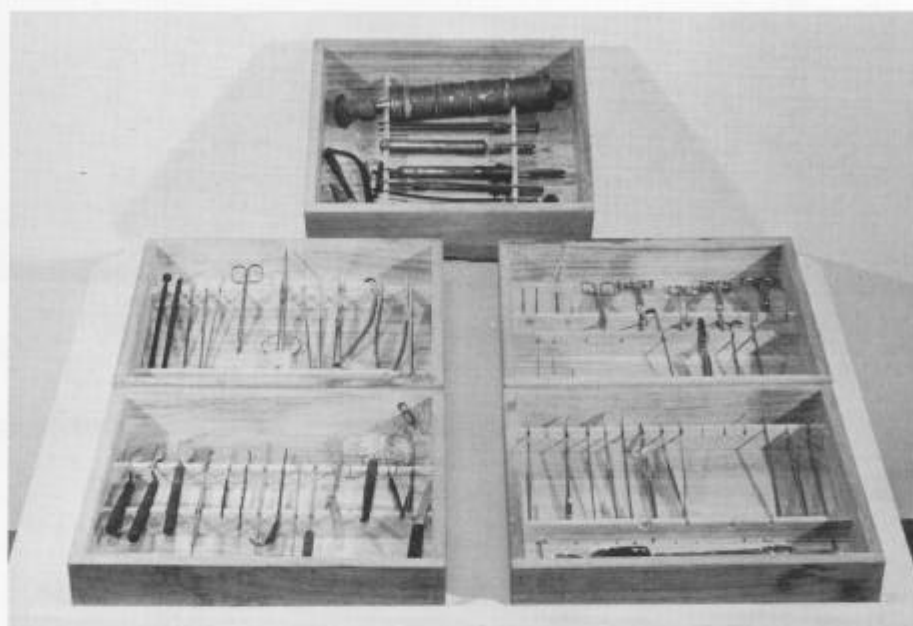
41 身体諸部の解書



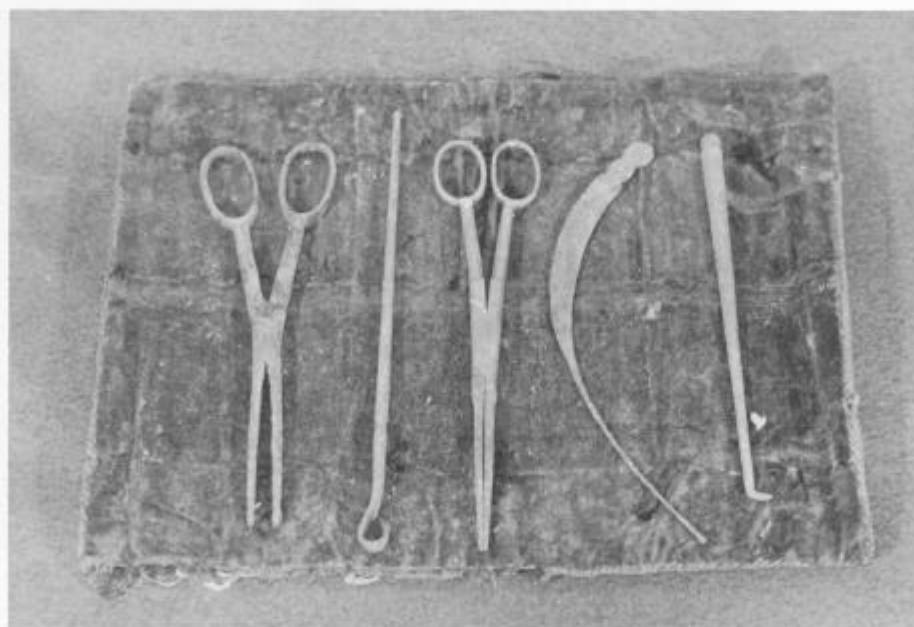
42 仏照寺文書



43 金創術伝授書



52 伝 南蛮渡来外科器械

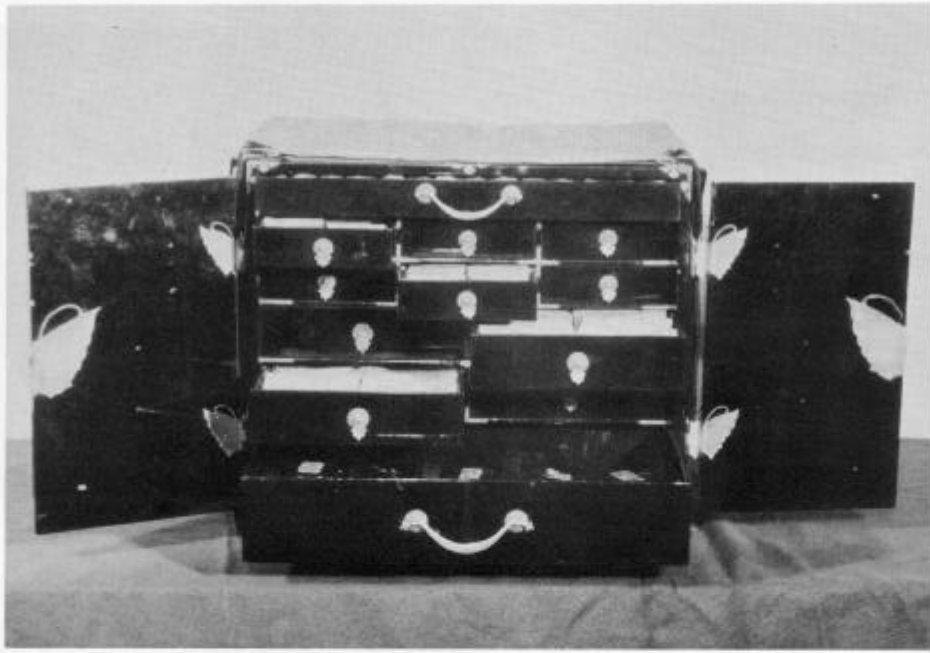


56 越前栗崎家伝来 外科器械

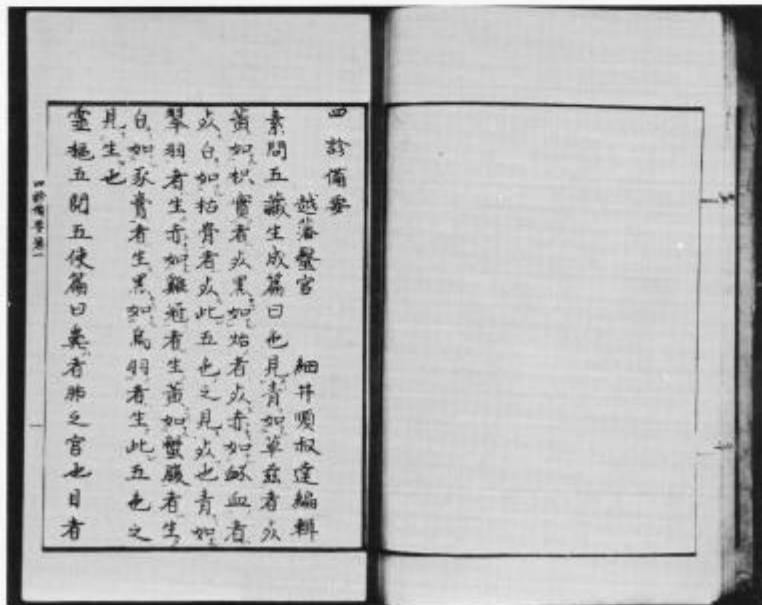
奥田家蔵
キリシタン灯籠



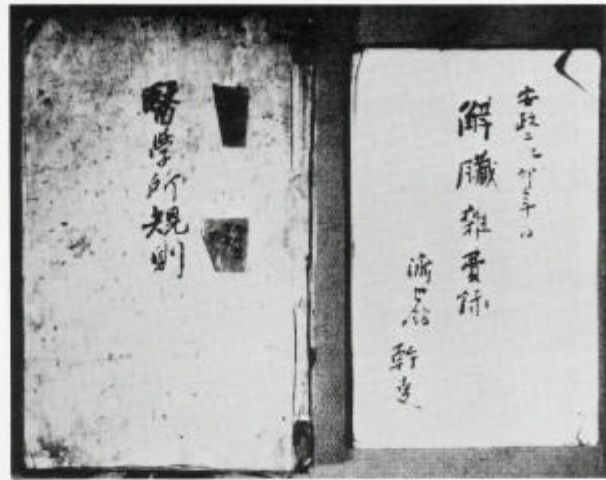
62
奥村南山木像



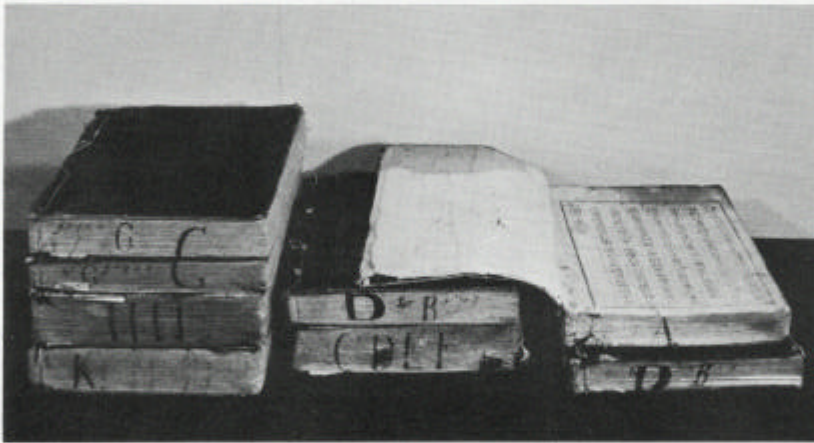
66 奥村南山所用 藥籠



68 細井東陽著「四診備要」



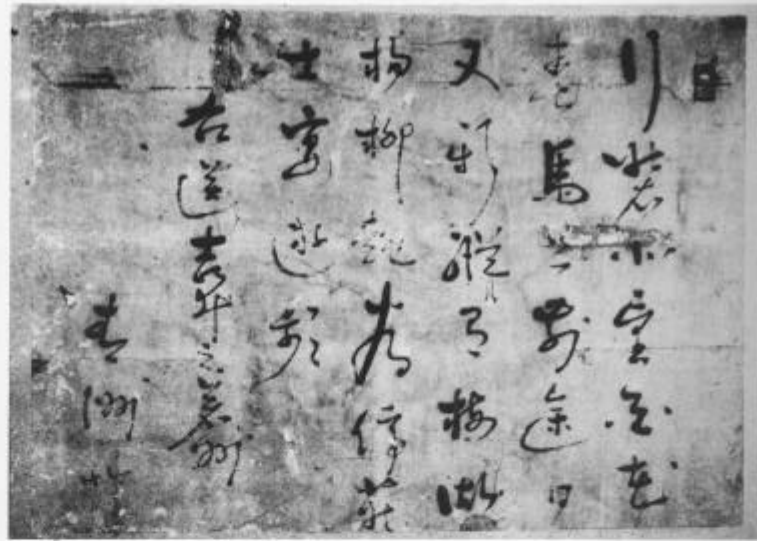
76 山本文書(一部)



81 大野洋学館旧蔵「和蘭字彙」



81 大野洋学館旧蔵「ツーフ・ハルマ」



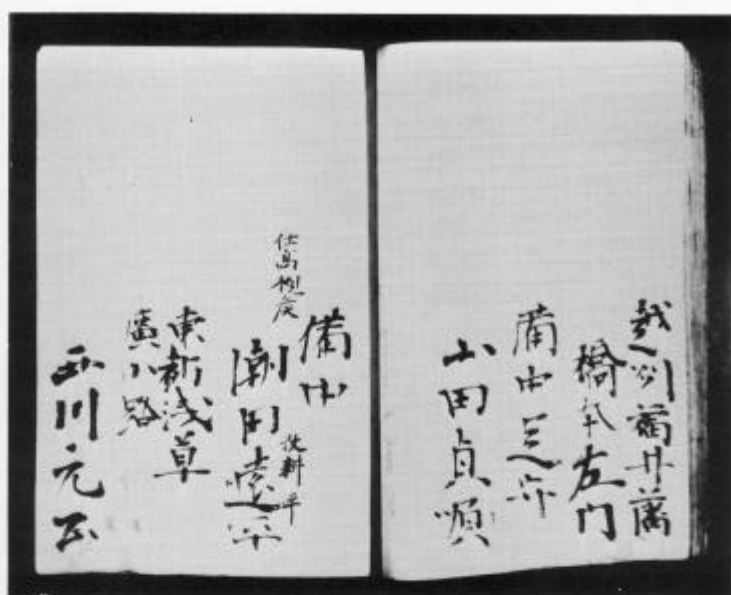
86 華岡青洲筆 送別の辞



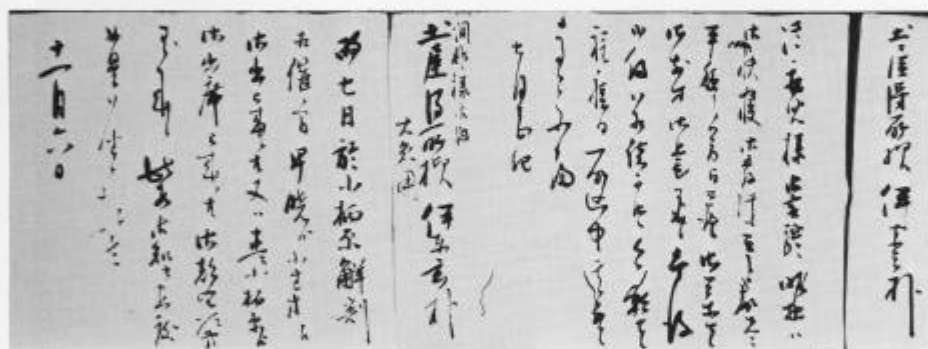
春日家蔵 青洲先生医語



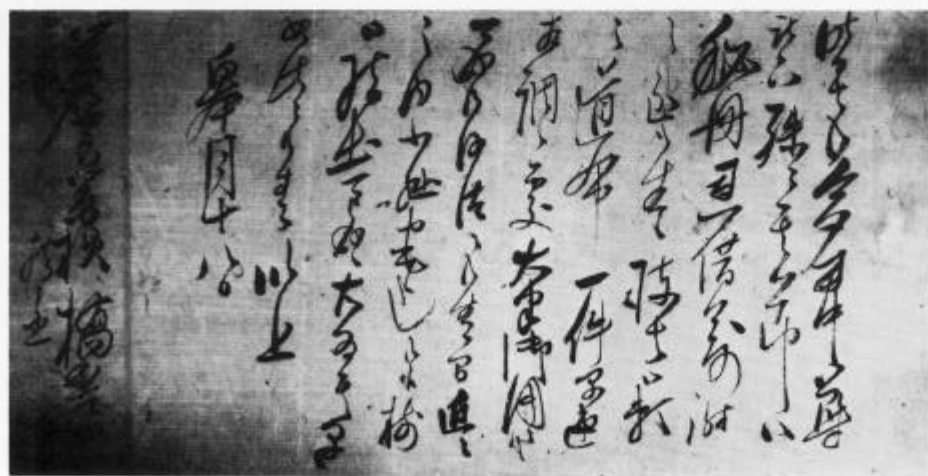
90 緒方洪庵書翰 (笠原家文書)



88 適塾姓名録



91 伊藤玄朴書翰



97 橋本左内書翰

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), arranged in vertical columns from right to left. The text is dense and includes various characters and punctuation marks.

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), arranged in vertical columns from right to left. The text is dense and includes various characters and punctuation marks.

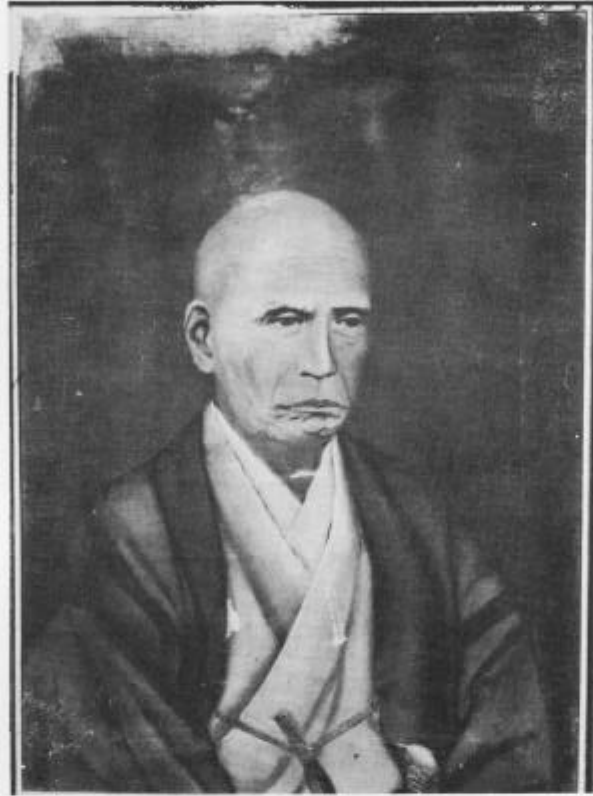
Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), arranged in vertical columns from right to left. The text is dense and includes various characters and punctuation marks.

93 坪井信良書翰

Kennen is veel waard,
 kunnen is Meer waard.

van 5 papieren brieven. Schiedamschen Waerdt.

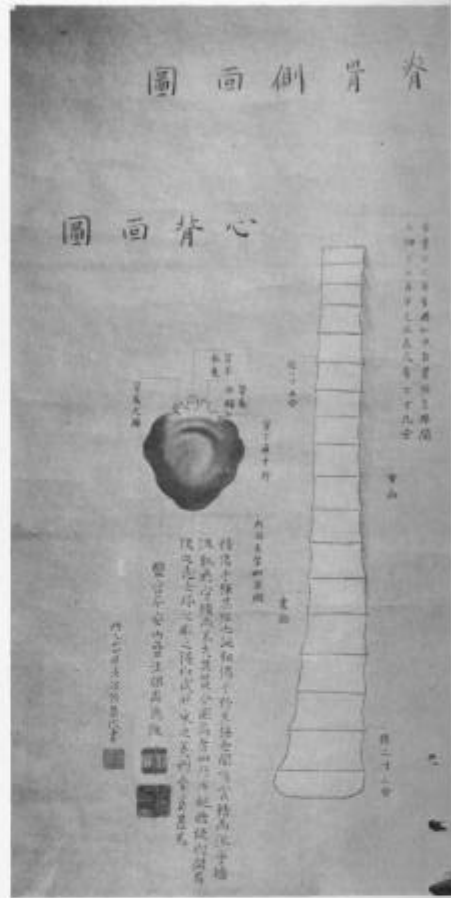
100 杉田成卿筆「蘭文額」(嘉永六年五月五日)



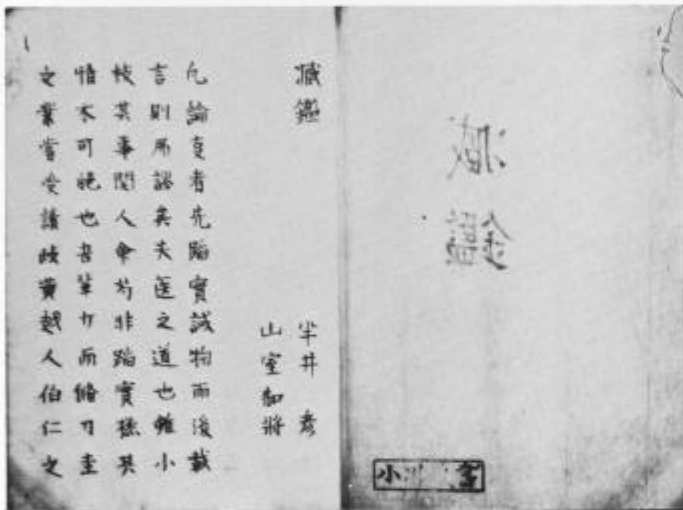
103 半井仲庵肖像画



105 半井仲庵書翰

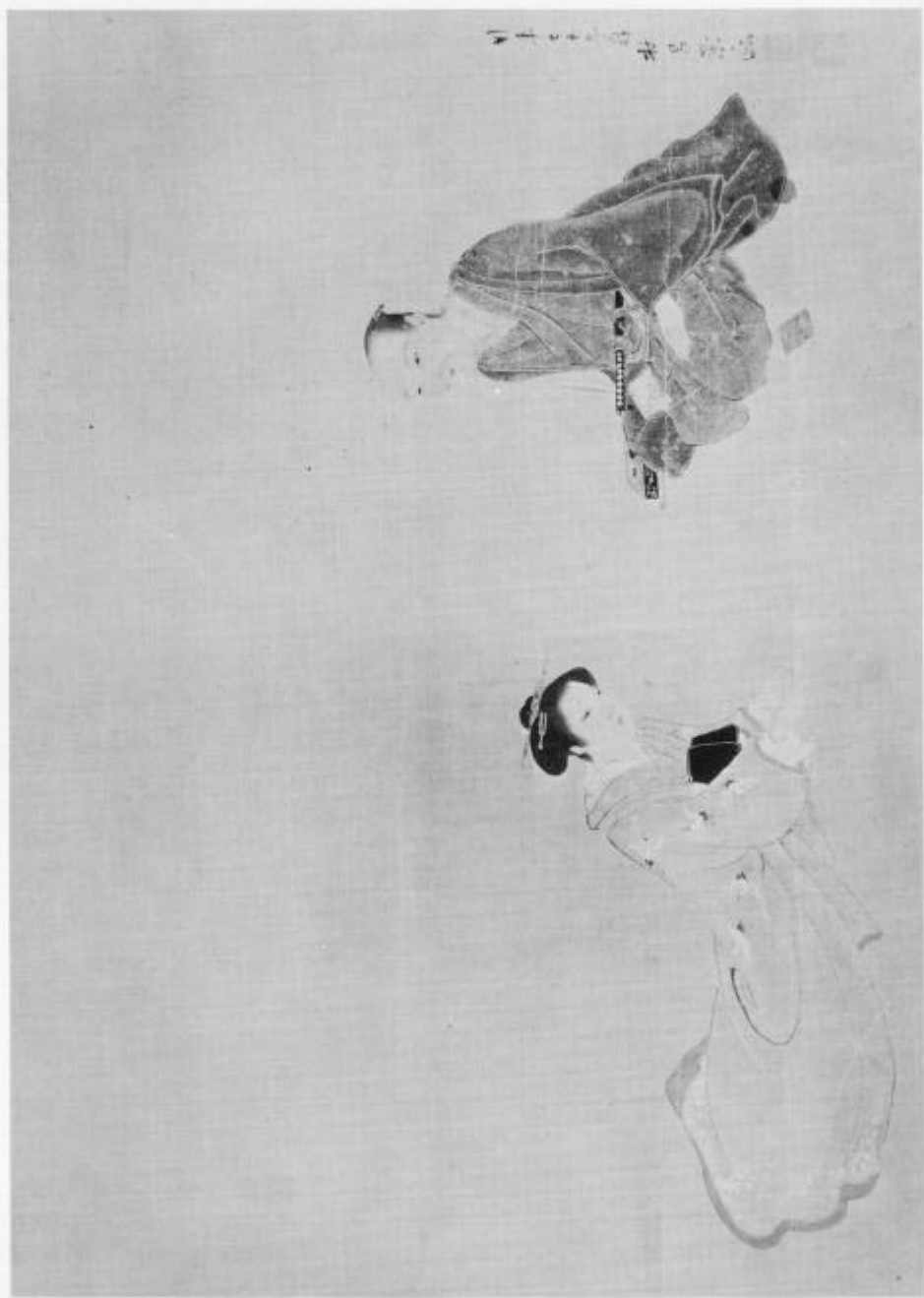


109 解体圖
(山脇東洋自筆)



111 減鑑



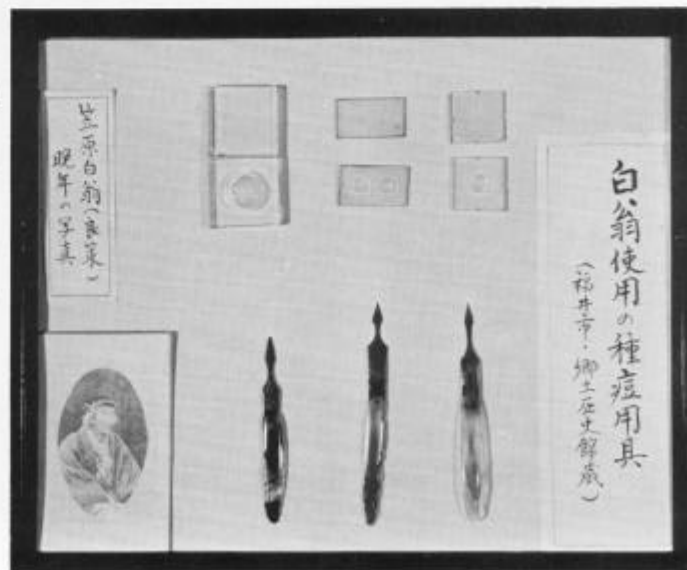


120 中川淳庵肖像画



131 笠原家文書(戦況録・公用留)

134 種痘器具



除痘館誓約

白神痘者西洋除痘毒之良法也蓋我邦痘之害人也十有餘年矣其毒至近世為甚也我公獨憂之欲遠求其法以預防之而永使我邦復為無痘之國也良也無狀叨奉鈞命之重切恐痘苗或一絕大業終難成允同盟之人

同二月廿四日
同三月廿六日
同五月廿六日
同六月廿六日

井代法為
井上善庵
明石昭齋
井上一庵
上田香庵
大田三卯
土屋待郎

桃井善一
松地元之
井代法為
井上善庵
明石昭齋
井上一庵
上田香庵
大田三卯
土屋待郎

133 除痘館誓約

福井醫學教場

藥物學終業候事

明治二十七年七月七日

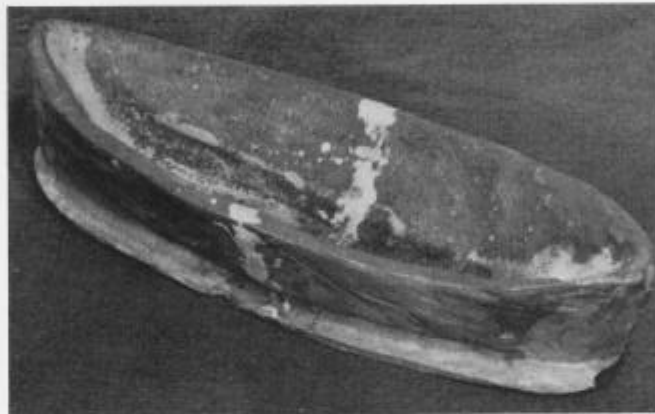
上田常郎

福井縣
福井市

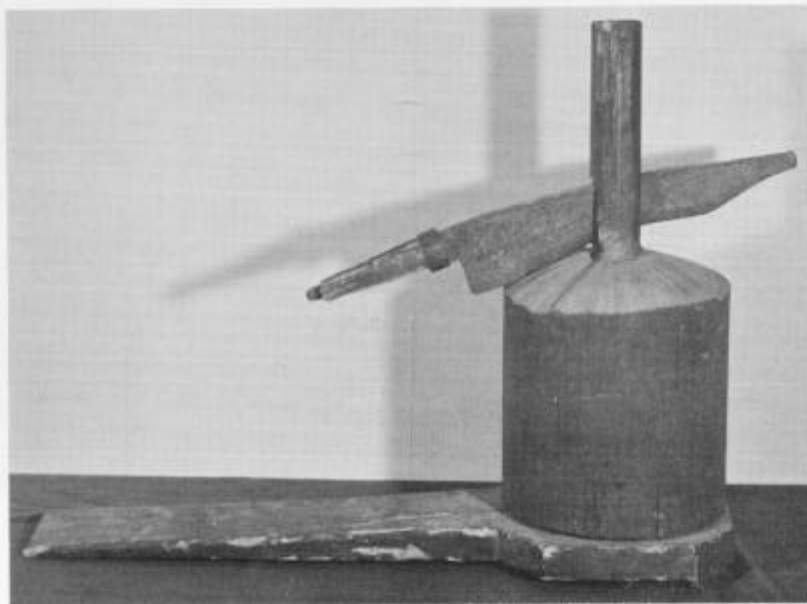
141 福井医学教場終業証書



142 福井医学校試験問題



151 薬研（越前焼・江戸後期）



154 くすりきざみ



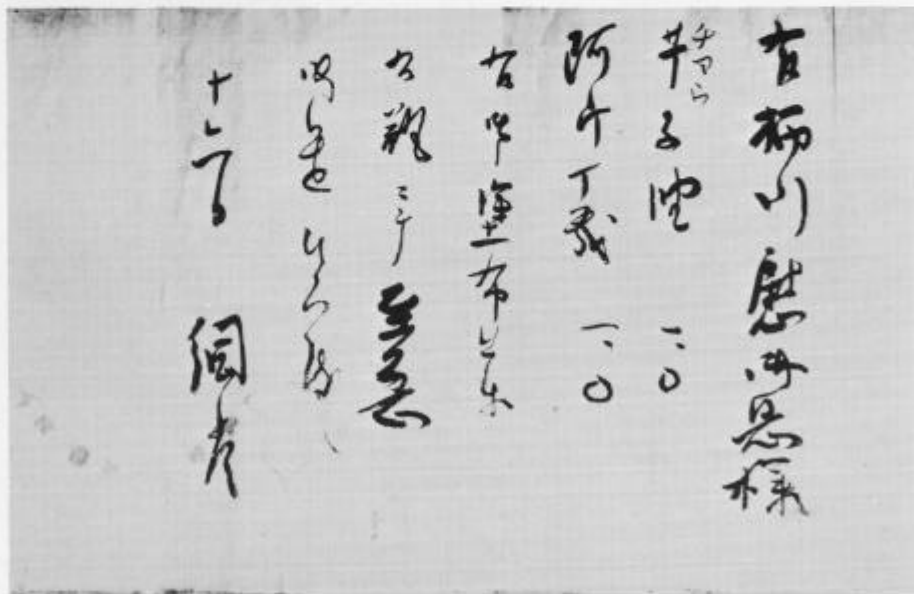
152 藥 籠



152 藥 籠



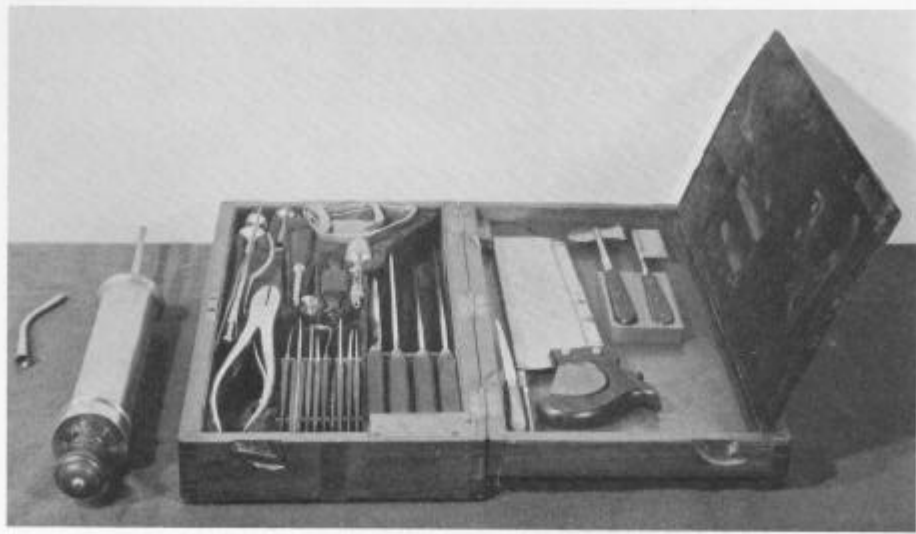
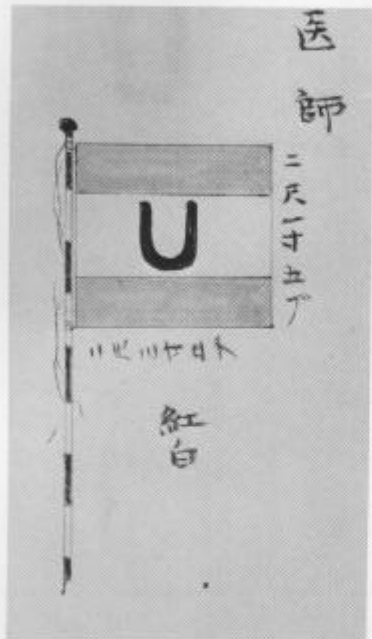
159 岩佐純遺墨



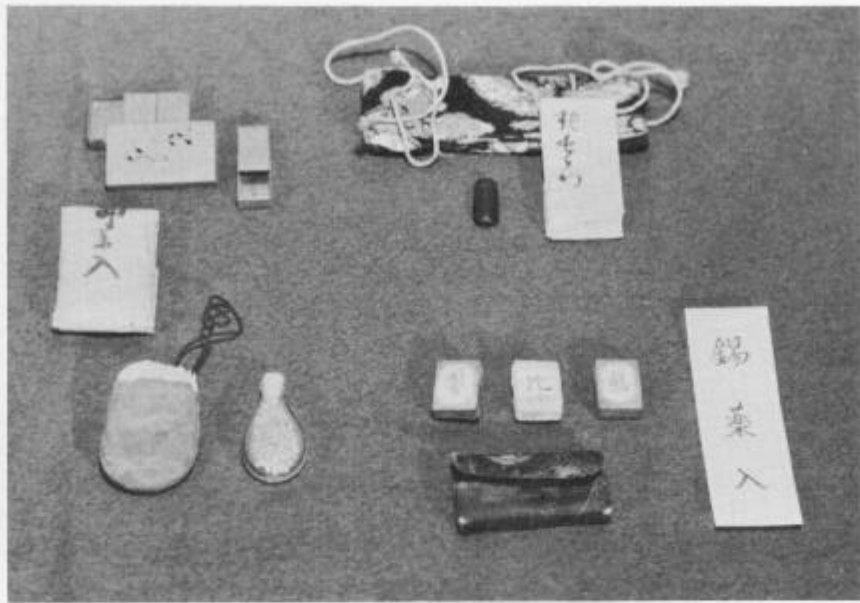
160 橋本綱常 処方箋

皇州喜色滿三河曉暮衣冠於
 欽我寔意然日月於他兵言賦乾坤
 清烟暖松一开眼上苑風香梅區說備快苑
 才遭聖代何時消滴報 天恩
 戊午元旦
 慶藏

170 会津征討出兵記より従軍医師軍旗



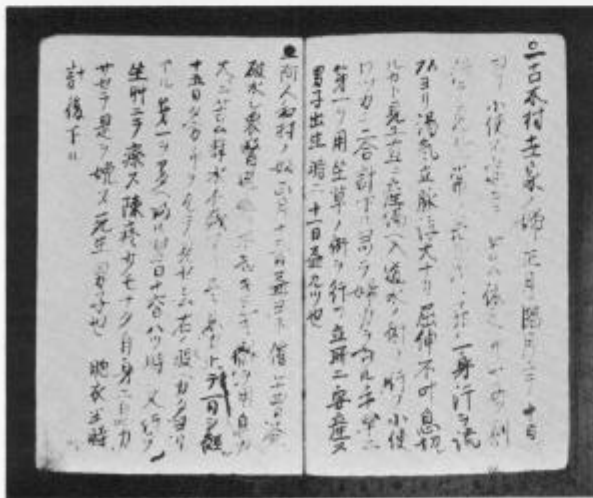
169 従軍医師所用外科器械



177 松平春嶽所用薬入類



赤星家蔵「産婦日々記」





近世医療関係資料（一部）



産小屋外観（敦賀半島 常宮）

「若越医学史展」

解説総目録

第一 古代より鎌倉時代末

(1) 古墳文化と医療

福井県の出土品から発見される薬品で、もっとも古いと考えられるものは、水銀（朱）である。古墳時代の遺蹟から、罌・石皿・石杵などに附着して出土しているが、福井市の足羽山では、石棺の内部や遺体の頭蓋骨に附着したものが発見され（五・六世紀初頭の古墳）、その防腐剤としての利用法が知られ有益である。

後代には、水銀は仏像その他への金メッキ、黄金の精練などに盛んに利用され、非常な貴重鉱物であったが、その採掘・精製には吉野族の丹生氏があたった。従って、「ニウ」の地名の存在する地域や、丹生氏が奉斎した丹生神社の鎮座している地帯は、古代の水銀（朱）出土地と関連のある場所と考えられ、そのほか「イカリ」「ニホ」などの名称も水銀の産出と関連深い。

1 罌^{はぎ}

古墳時代の須恵器で罌の腹部に小穴のあるものをいう。使用方について定説はないが、一般には、腹部の穴に竹の管をさして、水を飲んだり、そそいだりしたものとされて

一点

いる。

ここに展示したのは、福井市大島町より出土したもので、内部には朱が一面に附着し、古代の水銀文化と関連がある遺物と考えられる

本館蔵

2 石棺内より出土の朱

福井市足羽山、茶白山古墳（家形石棺）より出土。

本館蔵

3 石皿と石杵

二点

福井県丹生郡朝日町西田中出土。古墳時代明らかに朱砂の粉末化に使用されたもので、石皿の中央部および石杵の摩研面には石肌^{いしあは}に朱砂が濃厚に浸透している。

福井県宮崎村 水野九郎右衛門氏蔵

4 朱含有の土壌

一点

福井県丹生郡清水町竹生より採集。

松田寿男博士著「丹生の研究」によると、この付近の土壌には、○、○○一五%、○○六八%の水銀が含有されている。

5 山王宮丹生寺古図

大野市神明にある山王宮（現在日吉神社）は、旧土橋の庄の古城址にあたり、もと山伏栄久山丹生寺の鎮守である。丹生寺は、高野山蓮算院、善丹生院に属し、長楽院または以鳥の坊と号した。現在のところ、水銀文化に関する確証はないが、真言宗の一派が、水銀を重視した事実から考えて、何らかの関連を示唆するものではあるまいか。享保二十一年作図。

大野市・岩治勇一氏蔵

6 須恵器 薬壺（参考展示）

一点

平安時代。伝来は不詳であるが、越前の窯で焼かれたものと思われる。

福井県宮崎村 近藤金二氏蔵

(2) 宗教と医療

(イ) 信仰医療

信仰医療は、いまだ医薬の術がひらけず、神や仏にその慈悲靈験をこいねがい、祈りをささげるほかに治病の手段のなかった時代に起ったものである。その後数百年を経た今日となっても、現代医学の間隙をぬって、人々の間に、大きな力をもっている。

さて、病氣回復を祈願する神仏についていえば、まず仏の世界では、薬師如来を第一とし、そのことは神仏習合時代以来今日まで、薬師を社号とする薬師神社が、福井県下に十三社もあることよって、知ることができる。なお、薬師のほかに、観音、地藏、不動など、あらゆるホトケにわたっている。

神では、本県においては習合的に、少名彦名命に統一された観があるが、のちに大国主命がこれに代っている。しかし、以上は一応その概略を述べたもので、これまたホトケの場合と同じく、あらゆる神々に病悩の平癒を祈願してきたのである。

7 湯尾峠痘瘡神の御札

一点

湯尾峠は、今庄と湯尾の中間にあり、多くの旅人の往来した峠であった。この峠の茶屋では、孫嫡子という痘瘡封じの護符を出していた。

俳聖松尾芭蕉の

月に名をつつみかねてや抱の神

という句は、この峠の痘瘡神を詠んだもので、広く世に知られている。

護符には「孫嫡子云々」と神名を書いたものと、凶像をあらわしたものとがあるが、茶屋が四軒もあったというから、茶屋によって、ちがっていたものかとも思われる。

武生市史編纂室蔵

8 痘瘡神像の御札

一点

小浜市立図書館蔵

9 痘瘡御守札

一点

組屋六郎左衛門は小浜の町人で、藩の貢米を取扱った豪商であった。昔この家から由縁があつて痘瘡神の御札を頒布して、世間から重宝がられた。

小浜市立図書館蔵

10 痘瘡神木像

一体

この木像は、武生市高木町日蓮宗泉久寺の本堂の一隅にまつられている。もとは別堂として、小さいながら境内の祠の中にあつて、人々から厚い信仰をうけていたらしいが、その小祠が大雪のため倒壊したので、本堂に移されたという。

武生市・泉久寺蔵

11 白沢木像

一体

白沢は、漢籍に登場する神獣で、悪事をしりぞけて幸福をもたらし、あらゆる災難病苦を予防し、開運の祥瑞であると古今いわれている。旅行中のお守としても尊ばれた。かつて上田五兵衛商店々頭に置かれていたものである。

福井市・上田五兵衛氏蔵

12 元三大師御夢想灸用「挿鉢」

一点

中道院開山元三大師良源（平安時代）が、近郷に疫病が流行したとき、ゴマをたいて、平癒を祈ったのがはじまりで、二月二十日と三月二日に御夢想灸が行なわれる。その後一時中絶したが、四百年ほど前、ときの住職の夢に、大師があらわれ、お告げがあつて復活されたという。ヤイトとはいつているが、参詣者がかぶったスリバチの上でモグサをもやすのである。

鯖江市・中道院蔵

13 秘妙符(参考展示)

十 点

妙符の製方は秘とされている。一説には日蓮宗の僧徒が荒行堂にて一百日(自十一月 日至二月十日)の寒水修行中朱筆にて、くりかえし写経した朱染の和紙を小片とし、丸めて製したもののものである。その発祥であるが、日蓮が文永八年(一二七一)五月、五十歳のとき、当時の医師四條金吾の女房にあたえた書状に「符」のことが観られるので、かなり古くより行なわれていたことが分る。

14 鐘馗図(参考展示)

一 幅

梅谷筆。朱画。

15 痘瘡神画像(参考展示)

京都市・宗田 一氏蔵

身延山東谷延寿房。

京都市・宗田 一氏蔵

(ロ) 寺社の医療

16 羽賀寺 薬壺

二 点

鎌倉時代。越前古窯。羽賀寺で製造した万金丹を貯蔵したものと伝えられている。

小浜市・羽賀寺蔵

17 永平高祖行状記

二 帖

大野市・宝慶寺蔵

18 道元の解毒丸(参考展示)

一 点

道元禪師の伝記としては、応仁・文明頃(十五世紀中葉)永平寺第十四代住持建擿の編修した「建擿記」が知られている。

ここに展示したのは、文化五年(一一八〇八)珍年和尚が、「建擿記」を母体として文体を平易な仮名交り文に改め、一節ごとに図を加えて出版した絵伝形式の道元禪師行状記である。

この中に、道元禪師が入宋修業中、人里はなれた山中で

病気となり、稲荷神より丸薬を授けられて救われた一條がある。この際禪師に随従していた道正庵は、帰国後この丸薬を「解毒丸」と称して世に弘めたという。道正庵の解毒丸は、やがて大野の製薬店にも受継がれ今日に至っている。

19 鍼術伝授書

一 点

慶長十八年九月二十八日付。

20 鍼灸術医療器具

四 点

福井県三方町 信行寺蔵

(ハ) 医薬の神仏

21 薬師如来立像 付薬師神社扁額

一 体

天文年間(十六世紀中頃)に谷野一栢が八十一難経を福井市高尾町(旧足羽町)において出版したが、この像はその遺跡と伝えられているところにある。

一木彫成の立像で、普通如来の立像では、衲衣は胸のところが左右対称に彫出される通肩衣が多いが、本像は右の乳があらわに裸出する偏袒右肩の形式をとり、誠に珍らしい。このような像の遺例は極めて少く、本県ではこの像のみである。

像容は写実に基調を置いて彫成がなされているが、切れ長い彫眼や宋朝様の影響もみられる衣文の彫出などは、理想化の立場より形美しく整えられていて、造形的にも秀れており、地方には全く稀な像であるといつてよい。刀法も洗練されており、像は中央のすぐれた仏師の手によりつくられたようである。

鎌倉時代。像高一〇九糎。肘張三三、二糎。裾張二六、二糎

22 薬師如来画像

一 幅

福井市高尾町・薬師神社蔵
武生市・菱川四十三氏蔵

23 「大己貴命・少名彦名命」神号軸 一 幅

府中(武生)領主本多副昌筆。
府中医学所思精館旧蔵。

武生市医師会蔵

24 神農図(福井県指定文化財)

一 幅

神農は中国の古代の帝王といわれる。始めて農耕のことを民に教えてその業を興したので神農と称される。また百草を嘗めて医薬に効あるものを発見したというので、後世農と共に医薬の祖としても崇められている。人身牛首で頭に牛の角のような突起があり、顔貌は怪異で口に薬草をふくみ、体には木の葉をまとい、手に鎌を持つ異様な姿の像がよく描かれた。三国町藤田家のものは、山田道安筆で、一般にはこの姿の神農が多い。

福井県三国町・藤田久三郎氏蔵

25 三皇尊形並びに歴代医聖之図

一 幅

古来、医療関係の家の崇敬の対象とされてきたもので、一般の家には伝来せぬ特殊なものである。三皇だけ、或いは神皇炎帝のみを描いたものが多く、この様にすべての医聖を揃えて描いたものは少なく貴重である。

筆法は中国のものに似ているが、わが国で書かれたものであり、道釈画の系統に属している。この技法は、江戸時代以降、狩野派が用いたものであるが、大和絵の手法が全く見られぬことも、江戸期以後の作であることを示している。

相当の技倆をもった絵師の手になるもので、同種のもののうちでは、すぐれたものである。

福井市・奥田外来雄氏蔵

26 神農木像付厨子

一 体

大野市・岩治勇一氏蔵

27 七医神図 一 幅

福井の大月家に伝わったもので、七医神像の神仏のそれぞれについては判明しないが、中尊は神農のようである。

福井市・大月理氏蔵

28 ヒポクラテス画像

一 幅

銅版画の技法を日本に導入したのは司馬江漢であるが、その技法がヒポクラテス画像の作製にもおよんだと思われる。本画像はその銅版画を模写したものである。

題言の蘭文の意は「ヒポクラテスいわく、病気は能弁でなく、薬でなおる。嘉永三年ケンゾウ(福岡謙蔵)識」で、ヘンドリック、ゾーフ以来のヒポクラテス箴言の一節をとっている。

画像は「右手の見える、左向き」のヒポクラテスといわれるもので、右下に日本長谷川印の二顆の捺印が見られる。福岡家では長崎伝来と伝えている。

鯖江市・福岡寿彦氏蔵

29 ヒポクラテス画像

一 幅

題言の筆者小森桃塙(一七八二―一八四三)は、名は義啓、字は玄良、桃塙は号。美濃出身の洋方医である。

題言はクルムスの脚注の蘭文と漢訳からなっており「クルムス曰く、ヒポクラテス・コウスはギリシヤ国人なり。

シリストス(キリスト)降誕前四百三十二年に当りてマセドニア王第二ベルジスカスの世に生きる。寿一百四歳。

一にいう一百九歳。解屍の法を立て、著わすところの書あり。その自ら記せるものは散漉たがして見難し。別に鏤刻せるものあって、我輩に遺伝す。これ医道の祖なり。」の意である。

画像は春木南溟筆となっているが、源秀飛の画いたものと同じで、長円形の枠のなかに、頭髮をなびかせた動的な顔を真左向きにえがいてある。

布施家は滋賀県高月町唐川の医家、かつて敦賀市で開業、先代巻太郎氏の蒐集したものである。

滋賀県高月町・布施 美氏蔵
30 マサール原画・ヒポクラテス像 一 額

明治十年医師新村淳庵が版画家結城正明にマサール原版の画像を複製させ、ヒポクラテスとして出版したものである。しかし、明治二十六年入沢達吉（のち東大内科教授）によって、これはヒポクラテスではなくキリスト教の司教聖ヒエロニムスの画像だということがわかり、一挙にその存在価値を失った。現在でもこのことを知らずに、ヒポクラテスの画像として古書店にあらわれ、珍重されているむきもある。

武生市・萩原祐二氏蔵

(3) 古典的医書

31 靈 枢

二 冊

32 素 問

福井市・三崎玉雲氏蔵
八 冊

33 傷 寒 論

二 冊

34 千 金 方

福井県春江町・矢尾 要氏蔵
三 冊
福井県金津町・笹岡三郎氏蔵

第二 室町時代

(1) 谷野一栢（柏）

一栢は、かつて明国に留学して医学を学び、また易学にもくわしい奈良の真言阿闍梨（僧）であった。天文元年（一五三二）越前国主朝倉孝景に招かれて、一乗の城下に来て、

朝倉氏に任えた。後還俗して谷野雲庵と改め、一栢と号した。三反崎安景の子安指を養子とし、医薬の法を教授し、宗門の法は弟子釈尊芸につがせた。孝景は一栢のため足羽郡高尾に薬師堂を建て、一栢が校正した医書「八十一難経俗解」の版木をここに置き、医学の発展と人々の救済に役立たせた。現在の薬師神社は、その薬師堂の後といわれ、境内の一祠にはオンバサマと呼ばれる一栢の木像が安置されている。また付近には、製剤に用いた「亭の水」と、畠の中に「一栢屋舗」という遺蹟も残っている。

35 伝谷野一栢木像 一 体
（俗称おんばさま）

福井市高尾町・薬師神社蔵

36 四聖像

一 幅

谷野一栢自筆賛。

37 八十一難経並びに図

三 冊

越前版。県指定文化財。

福井市・三崎玉雲氏蔵

38 八十一難経並びに図

三 冊

越前版。

福井市・三崎玉雲氏蔵

39 八十一難経版本

六 枚

越前版。県指定文化財。

滋賀県高月町・布施美術館蔵

40 八十一難経並びに図 一 冊
明版

福井市・三崎玉雲氏蔵

単に「難経（なんけい）」ともいう。寛平年間（八八九〇）の現在書目に、「黄帝八十一難経」とあるものがこれだ、延喜式にも医師の講議すべきものとしている。この「新刊勿聴子俗解八十一難経」は、明の熊宗立が解釈を付した

もので、谷野一栢が天文五年（一五三六）に、一乗谷において上梓したものである。

三崎玉雲家の所蔵本は、その初版ともいへば鮮明なもので、福井県文化財として指定されている。

滋賀県高月町布施実家の所蔵本は、一栢の識語などの手沢があつて、書誌学的にも貴重である。

西福寺所蔵の難経版本は、昭和三十九年にいたつて偶然に西福寺より発見されたもので、六枚十九面を現存するのみであるが、福井県は、室町時代における文化活動を物語る貴重資料として、翌四十年これを県の文化財として指定した。

三崎玉雲家に所蔵する「明版八十一難経」は、成化五年版本の原書であつて、彼我の当時における出版技術の比較がみられるなど、はなはだ貴重な資料である。

41 身体諸部之解書

一冊

奥書「此一冊者越州一乗谷従一伯齋相伝之本也

慶長十五庚戌 霜月吉辰

村井四郎兵衛

近藤信濃守様 参

東京・小川鼎三氏蔵

(2) 印牧庵

42 仏照寺文書

十一通

①朝倉氏景安堵状 ②朝倉孝景禁制 ③朝倉孝景書状

④前波景定奉書 ⑤松原九藏寄進状 その他

福井市・仏照寺蔵

印牧庵については、これまで朝倉氏に仕えた中世室町期の名医で、生没出自不詳とされていたが、最近になって印牧庵、上池庵共に仏照寺（福井市南江守町）先祖の庶子であり、二ヶ寺共に塔頭であることがわかった。然し両人共

複数の人物と考えられ、その初代、二代あたりが朝倉家の信任厚く、名をなしたものと思われる。
今回展示した古文書は、この間の事情を物語るもので、仏照寺に蔵されている。

(3) 金創術

43 金創術伝授書

一冊

若越中世の外科書としては唯一のもので、最近発見された貴重な写本。室町末期、若狭守護大名武田氏の侍医湯浅等雲軒により伝授されたもので、十六世紀中期後半の本邦外傷外科術の実相がうかがえる。

武生市立図書館蔵

44 朝倉義景感状（参考展示）

一通

「去月十日於江州志賀郡穴太口野伏之時、被鉄炮疵一ヶ所忠節為神妙者也」

（元龜元年）十二月五日（義景花押）

千阿弥

鯖江市・中道院蔵

第三 安土桃山時代より江戸時代初期

(1) 大月家

（系譜）

朝倉氏の女をめとり、吉田郡志比谷（永平寺町）に住む。朝倉滅亡後、北の庄に出て産科医として名声を博す。家伝では天正元年（一五七三）歿となつている。

大月備中守景秀——（二代） 齋——（三代） 庵

義悦・斎庵・寿斎など
と称す。
享保八年(一七三三)歿。
享保八年(一七三三)歿。

(四代) 玄通 義翁 — 斎庵 義泰 — 文庵 義明

藩から町医師総
支配を仰付けら
る。

天明七年
(一七八七)歿。

天明七年
(一七八七)歿。

文政十三年
(一八二〇)歿。

嘉永二年
(一八四九)歿。

斎庵 — 貞庵 — 文庵 — 保三

名及び生涯
不明
元治元年
(一八六四)歿。
明治四十年歿。

(十一代)

斎庵 — 貞庵 — 斎庵 — 保三 — 寿

(十二代)

(十三代)

(十四代)

(十五代)

七代 福井市長

(十六代)

(十七代)

理(当主)

大月家は三崎家とともに北庄以来医家として続いた家である。初代善隆は当時の越前国主朝倉氏の一族との縁因により将として吉田郡志比谷野々市村(永平寺町)に居住していたが、かねて医術に志し、朝倉家軍用の万金丹の秘方を受けた。天正元年(一五七三)朝倉氏が滅亡すると、北庄の館矢町(足羽町)に移住し、産前産後の薬は有名であった。二代寿斎は鷹巣刑部のもとで産科を修め、慶長八年(一六〇三)藩公秀康の召に応じて、医効を高め、その賞として立矢町の屋敷地に御朱印を下された。寿斎の庶子通真は大坂に移って医名をあげ、当時大阪四大家の一人とい

(2) 奥田家

52 南蛮渡来外科器械

箱書には「天文四年(一五三五)アルメニア国、柳玄叟伝来、南蛮外科器械」とあるが、大半はオランダ流外科器械と考えられている。福井における南蛮医学の面影を伝える貴重な史料である。

所有者の奥田家は、福井の医家として三崎、大月の両家とならぶ旧家で、金創薬「奥田の膏薬」は、当時非常に有名であった。

53 奥田家文書

一〇点

- ① 奥田氏系図
- ② 慶応元年「御匙医師取扱」辞令
- ③ 元治元年「帯刀並びに御目見」免許状
- ④ 奥田家へ入門の誓詞
- ⑤ 御用召状 (その他)

われた。四代玄通義翁の弟仲庵は敦賀において医業を開いた、いわゆる敦賀大月家である。七代斎庵は藩から町医師総支配を仰付けられ、十六代斎庵は東京帝国大学小児科を卒え、福井に開業し、その後、福井市医師会長等の多くの公職に就任したが、時に昭和五年から十年まで四年三ヶ月にわたって福井市長に選ばれ、市政につくした。

45 大月家々憲

一通

46 福井三代藩主松平忠昌朱印状

一通

(寛永元年十二月二十五日付)

47 福井四代藩主松平光通朱印状

一通

48 福井五代藩主松平昌親朱印状

一通

49 医師用道服

二着

50 火消装束

二着

51 脇差

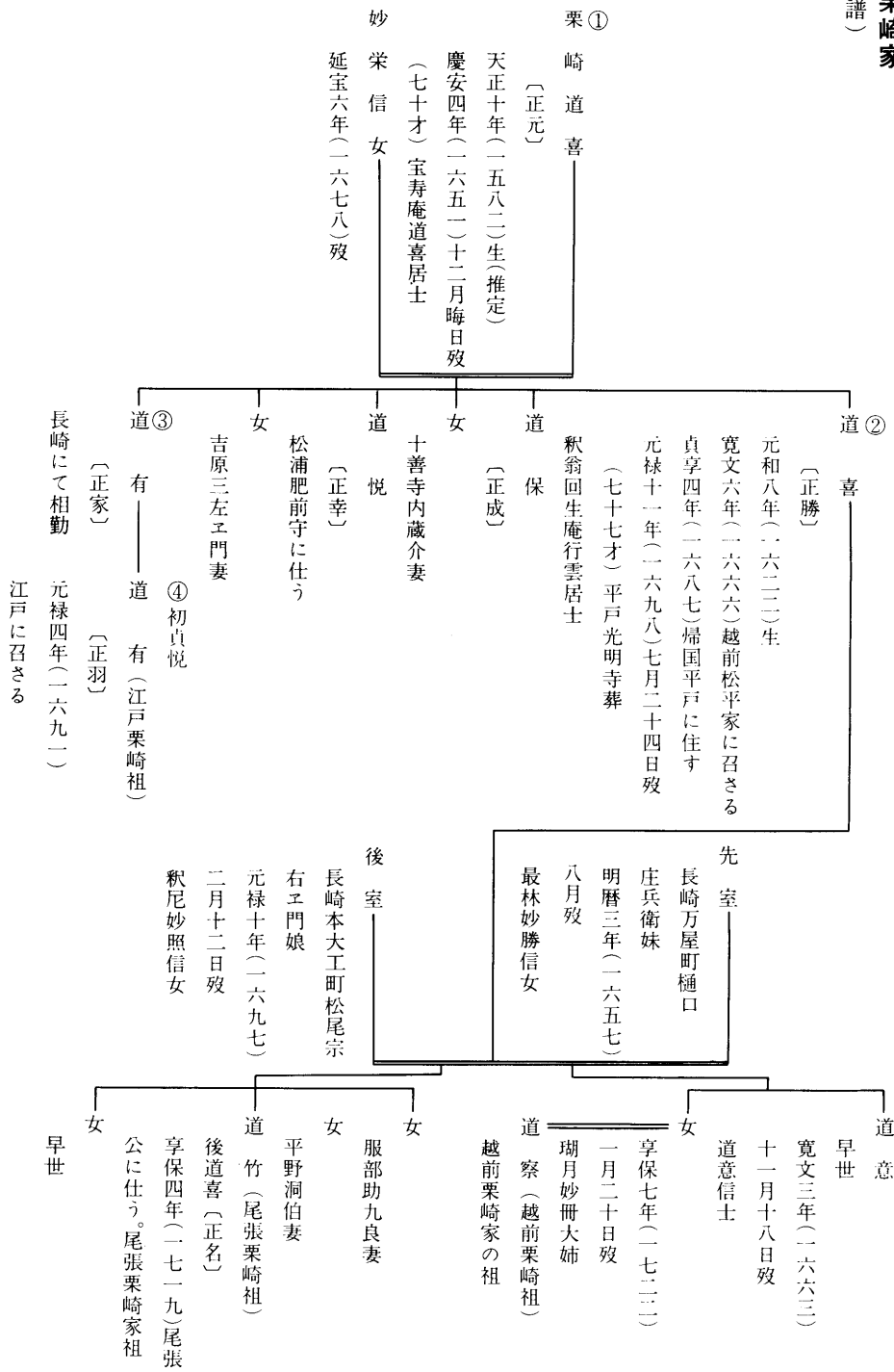
一口

以上 福井市・大月理氏蔵

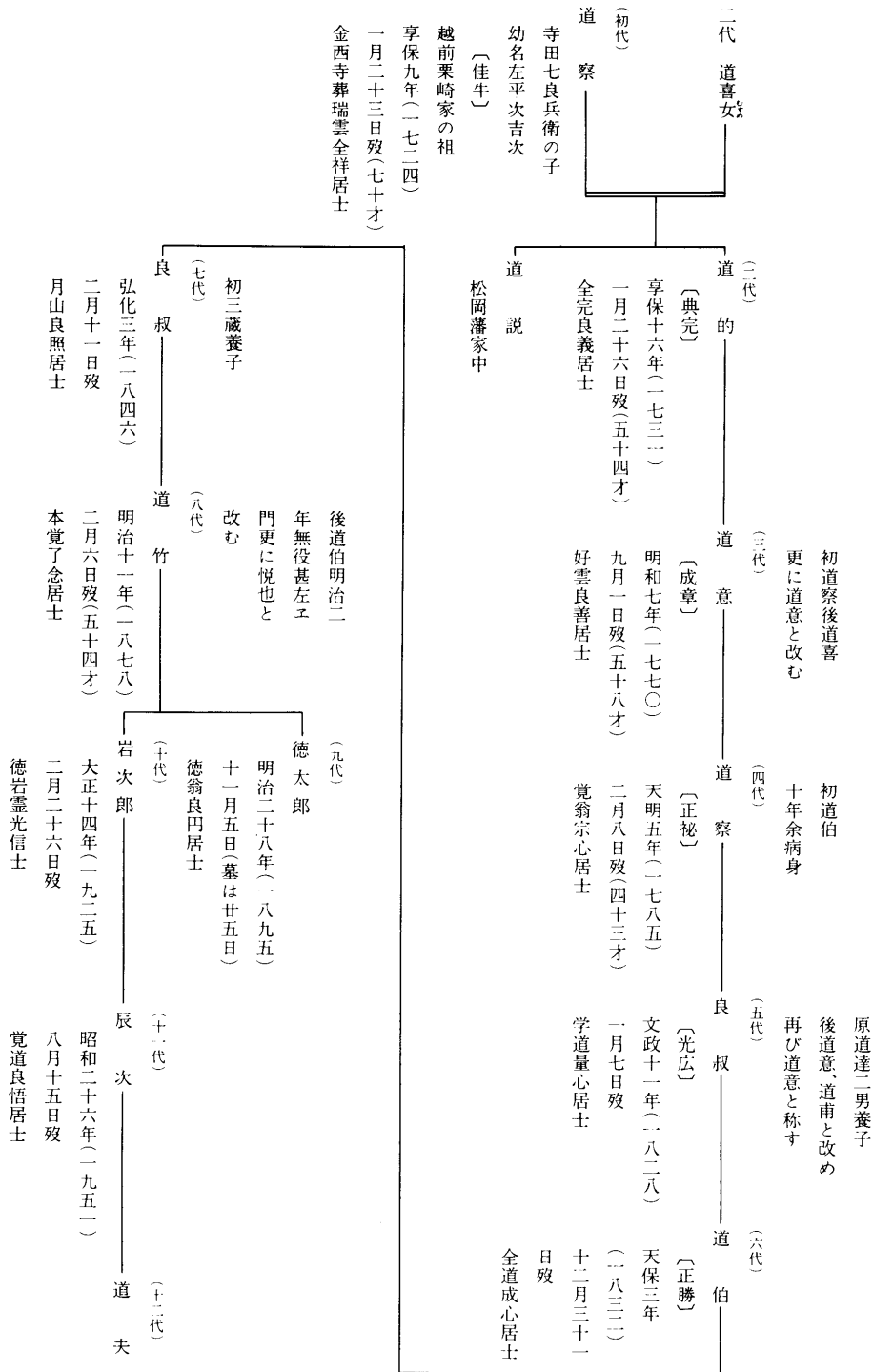
一式

(3) 越前栗崎家

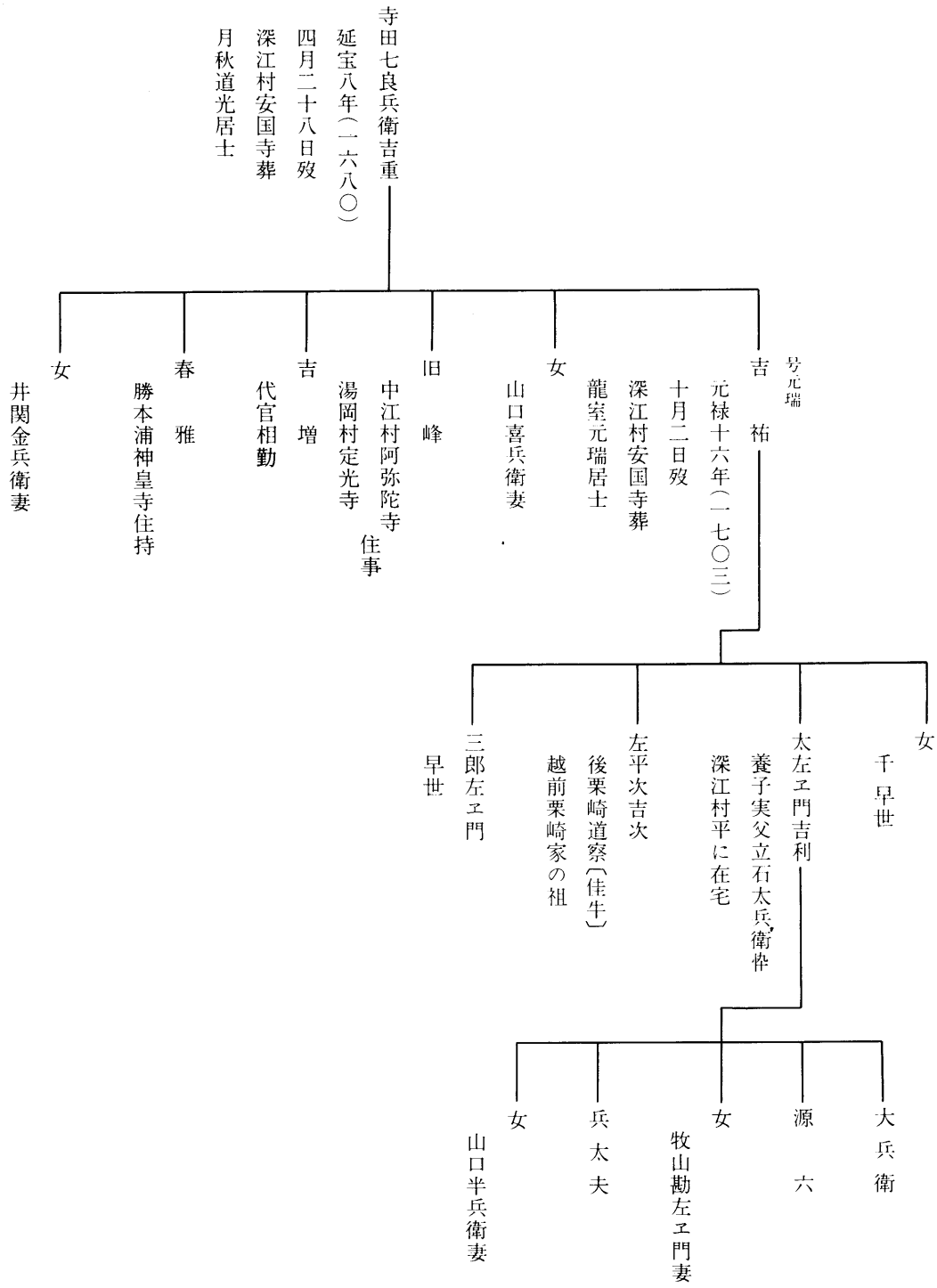
(系譜)



〔越前栗崎家〕



〔寺田家系譜〕



〔尾張栗崎家系譜〕

曾根田尚順

寛政九年（一七九七）

道栄と改名

初道竹

栗崎道喜

道栄

〔正名〕

平戸公に仕う廿人扶持

文政四年（一八二二）
六月二十六日歿

望有之牢人

享保四年（一七一九）十一月

尾州公に仕う二百石十人扶持

道達、道仙、道栄

養子

不明

道

雲

道

碩

道

□

天保十五年（一八四四）

弘化四年（一八四七）

嘉永五年（一八五二）

八月十二日歿

七月二十二日歿

十一月二十七日故あり
立去る

南蛮外科は鉄砲、キリスト教伝来と共に移入されたもので、日本外科史上金創外科に続くもので、この期の後にオランダ外科が現われる。

松平家四代光通に招かれ、遠く平戸より召に応じた栗崎道喜正勝は、当代随一の南蛮外科医であり、後平戸に帰ったが、その高弟道察と正勝の娘が越前栗崎家の祖となり、

福井に南蛮外科が行われるに至った。

55 栗崎家文書

十五点

①先祖由緒書 ②家流金瘡秘伝書 ③桂川甫三より栗崎

道喜宛書翰 ④山瀬新五兵衛より道喜宛 その他

福井市・栗崎道夫氏蔵

栗崎家を使用した外科器械の一部と思われる。

福井市・栗崎道夫氏蔵

(4) 田代家（付越前のキリシタン）

〔福井とキリシタン医家〕

キリシタン大名高山右近の父ダリヨ（飛彈守）は、敵対した織田信長により、紫田勝家預けとなり、北庄に幽閉された。後に送られたダリヨ夫人と共に、幽閉とは名のみで柴田家では生活を保障されたばかりか、全くの自由を与えられ、同情者勝家の下で、越前のキリシタン布教の先達となった。

松平家では昔からキリシタン類族家として、田代家・奥田家（以上医家）・狩野家・奈須家（絵師）を注視していた。

福井藩に於ける耶教の記事として、阿部四郎五郎より本多藩老にあてた書翰に「吉利支丹宗旨御家中ニ有之由ニテ云々ト見ユルガ、コレ寛永中ノコトナルベシ、同二十年十二月藩中田代養仙、無請三竹切支丹ナル由訴へアリ、即チコレヲ江戸へ指出サシメタリキ」などと見え、また松平文庫「御停止」異変死失の部に「古切支丹奥田家系・軼切支丹狩野家系」として両家の系譜が出ている。

田代家の先祖は、宇都宮古河方面から松平家と共に福井へ移り、養仙・養山・養伯・養元・養哲・元升・養悦・宗玄・道寿・道玄等とつづき、奥医師、表医師として仕えていた。田代家の後裔はわからないが、同家墓碑は福井市西木田の曹洞宗泰清院墓地の土中に半ば埋れ現存、また大阪南蛮美術館にある「悲しみのマリヤ画像」は奥田家伝来ともいわれ、同家庭前にあるキリシタン燈籠は、遠い昔の秘めたる信仰を語りかけているようである。

ちなみに橋本左内の父長綱は田代家出身である。

57 御停止 異変死失の部

（キリシタン類族関係文書。松平文庫所収。）

一冊

福井県立図書館蔵

(5) 曲直瀬道三の学統（若狭小野家）

小野家は、遠敷郡名田庄村久坂の旧家で、家祖古柏院道喜が、曲直瀬道三の門に入って医学を学び、その医学を当地に伝え、その後代々医業を継いで、同地方の人々から親しまれてきたが、先代限りで医業を廃した。

58 道三家譜

一点

小野家の系図で、その医業について詳しく記録されている。

59 曲直瀬道三書状

福井県三方町・今井長太郎氏蔵

一通

福井市・越島 進氏蔵

(6) 大野藩林家

60 「アルマンス」阿蘭陀外科免状

一通

大野市・岩治勇一氏蔵

61 林家五代、雲仙短冊

一枚

大野市・岩治勇一氏蔵

第四 江戸時代中期

(1) 奥村南山（良筑）

南山は、貞享三年（一六八六）に、武生市松森町で生まれた。幼名六三郎、名は直、字は良竹または良筑、南山はその号である。十二歳のとき、府中（現在の武生）の藩医山崎良伯の学僕となったが、十五歳のとき山崎家を辞し、大

阪に出て商家鴻池に奉公、余暇を見つけては、鋭意医学を修めた。

二十一歳のとき、旧師良伯の委嘱によって山崎家にもどり、山崎家の医業を助けた。のち独立して本多家に仕え、御匙医として十人扶持を受けた。

これより吐法を復活して、全国にその偉名をとどろかせ、多くの門人を教育した。宝暦十年（一七六〇）九月七十五歳で死亡した。

〔吐方について〕

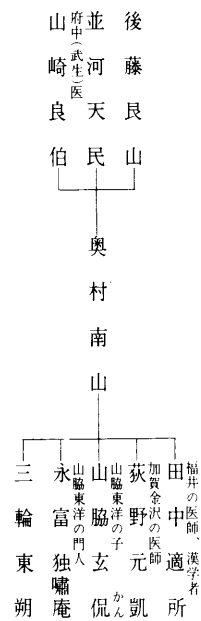
漢方医学の薬物療法には「汗・吐・下・和」の四法があり、この内「汗・吐・下」の三法は、周・漢の時代に盛んに行われ、張仲景が最もよくこれを用いた。しかし、これらの漢方医法は次第に衰微し、支那においても治療はほとんど「和」の一法のみとなり、わずかに金の張子和が復興したが、継承者がなく再び廃絶してしまった。

我国では、江戸時代中期にいたって、後藤良山・香川修庵・山脇東洋・吉益東洞の諸医家が「汗・下」の二法を再興したが「吐」法には及ばなかった。

府中（武生）の医師奥村南山は、張子和の著「儒門事親」を読んで啓発され「吐」法の研究に着手し、ついにその復活に成功した。南山が吐法に用いた薬品は、郷里府中で産する甜瓜（あまうり）の蒂であり、この地方に産するもの以外の瓜は、効果がなかった。

南山の吐法は天下に鳴ひびき、全国から入門者が殺到したが、山脇東洋も宝暦二年（一七五二）その子玄侃と門人永富独嘯庵を府中にゆかせ、南山の門人とした。

〔奥村南山学統図〕



62 奥村南山木像
奥村家に伝来する南山の木像である。像のあごに値付けられた毛は、南山自身のもものと伝えられている。

63 奥村南山所用印籠 一点

64 伝記（正五位追贈） 一通

65 山脇玄侃書翰貼交屏風 一双

66 薬籠 一箱

奥村家が府中領主本多家から拝領の薬籠である。銀金具その他、誠に優美な造りである。

67 吐方考 以上 武生市・奥村誠氏蔵
二部 福井市・齊藤機堂氏蔵
福井市・松下勇二氏蔵

(2) その他

68 四診備要 一冊
福井藩医細井東陽著述 福井県立図書館蔵

69 松蔭医談 一冊
大野藩医雨森宗真著述 順天堂大学図書館蔵

70 長岡宗宅遺墨 一幅
松蔭医談編者 大野市・岩治勇一氏蔵

71 芸園鉅考

二冊

大野藩儒医松邨九山著述。山本北山の著書を反駁したものの。

72 義臣解難

一冊

大野藩儒医松邨九山著述

大野市・岩治勇一氏蔵

73 松邨九山賛・中村西溪画の幅

一幅

福井県金津町・笹岡三郎氏蔵

74 大成論和語鈔 三

一冊

大野市・岩治勇一氏蔵

岡本一抱著述

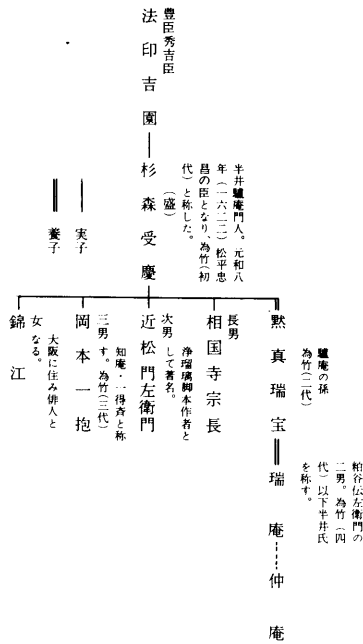
75 鍼灸拔萃大成

七冊

福井県金津町・笹岡三郎氏蔵

福井市・松下勇二氏蔵

〔岡本一抱関係系図〕



(為竹とは杉森(後半井)氏代々の通称で、現在の福井市左内公園のあたりに屋敷を構えていた。大かつてはその前に「為竹様」という一間はかりの櫓が架かっていた。)

第五 江戸時代後期

(1) 各藩の藩校と医学教育

(イ) 福井藩(明道館・濟世館)

76 山本文書

二一帙

① 濟世館医学所規則 ② 公用留 ③ 解臟雜費録(その他) 福井藩医学所濟世館の幹事であった医家山本家の文書で、医学所規則、公事記録、解臟雜費録、幕末維新期の医家名簿等が見える。ちなみに山本家は眼科医として名があった。

福井市・竹内真一氏蔵

77 骨盤

三点

78 医療器械箱

三点

両品とも、濟世館で明治期に使用されたもの。

福井市・医師会蔵

79 福井城下絵図

一面

慶応年間の図。「医学所」の記入があり、幕末の医学所の位置が判明する。松平文庫所収。

福井県立図書館蔵

80 濟世館紀事

一冊

春嶽公記念文庫所収。橋本綱常家旧蔵。明治期迄の濟世館沿革を略記したもの。

本館蔵

(ロ) 大野藩(明倫館・洋学館・濟生館)

81 洋学館旧蔵洋書類

① ハルマ原書 ② ツーフ・ハルマ(写本) ③ 和蘭字彙

④ 訳鍵 ⑤ 海上砲術全書 ⑥ 海上砲具全図 ⑦ モースト

⑧ リセランド ⑨ フヘランド ⑩ カンスタット(その他)

福沢諭吉は「梅里余稿」の巻末に「宝曆明和以来八・九十年間の蘭学は、医師の蘭学にしたるものなれども、弘化嘉永以後の蘭学は士族を蘭学にしたるものなり」と述べたごとく医学と兵学とは、蘭学史上の二大主流であった。そのため若越の各藩も諸藩と競いつつ軍備の充実に努め、盛んに蘭書の翻訳をし、藩士の蘭学の研究、蘭学者の招聘等

に力を尽し、砲術の改革、部隊の改編訓練等を行ったのである。事実福井藩の場合も現存する蘭書目録等により、その状況を推察できるが現物蘭書の多くを散佚した今日、大野洋学館の旧蔵蘭書（翻訳書も含む）は極めて貴重な存在である。

よって特に御許しを得て医学関係の蘭書ばかりでなく、兵学関係のものをも展覧し、当時の蘭学の知識、技術の実践・応用の状況を紹介せんとするものである。

82 洋学館へ入学人名録

安政三年以降洋学館へ入学した人名を諸帳簿により集録したものである。そのうち、緒方洪庵の二子、故井上馨遭難の際施術した所郁太郎の名も見えて注目に価するものである。

(イ) 勝山藩（成器堂）

83 古銅 孔子像

大野市・岩治勇一氏蔵

一 体

勝山市・教育委員会蔵

(ニ) 府中（武生。思精館）

84 思精館の記

一 冊

福井市・竹内真一氏蔵

(2) 華岡外科の関係

〔華岡青洲門人帳・若越関係人抜萃〕

若越 文化 元、 小浜 今井才蔵
（聖瑞字叔鳳）

同 元、 小浜福岡町 吉井文珪
（公明）

同 八、一一、一六 小浜福岡町 吉井文吾
（家中）

同 一一、正、一一 小浜福岡町家中 近藤怒庵

越前

文政 九、二、二七 小浜福岡町 吉井文圭
（家中）

同 一三、八、一四 大飯郡高浜 人見周輔

天保 九、正、二五 小浜藩 松山新次

同 一一、正、二三 竹原家中 吉井怒輔

弘化 四、三、二七 小浜家中 中堂敬輔

安政 二、二、二五 大飯郡石山邨 杉谷崇敬

寛政 九、閏七、二 南条郡牧上邨 石堂 鼎

文化 一〇、二、朔 福井家中 神山勇齋

同 一三、正、二二 福井家中 岩佐玄珪

同 一三、閏八 三、国 林 栄蔵

同 一五、五、二二 福井家中 橋本春貞

文政元、 福井家中 引間圭庵

同 四、五、二四 鯖江間鍋下総守家中 窪田哲齊

同 八、二、二六 三、国 栗山永助

同 九、五、二二 丸岡藩中 合屋祐雪

同 一一、八、一九 今立郡府中 加藤良平

天保 三、九、三 三、国 栗山寛蔵

同 三、正、一五 福井藩中 加藤周益

同 四、二、五 福井家中 橋本春蔵

同 四、五、六 福井家中 栗崎良叔

同 四、七、一九 福井 藤田龍庵

同 五、七、二七 勝山小笠原相模守中 谷 三宜

同 一五、二、二〇 福井 田中圖書

弘化 三、九、朔 今立郡下新庄村 福岡謙蔵

嘉永 四、七、二四 福井藩中 橋本左内

安政 二、八、一八 福井藩 大橋玄樹

同 三、四、 三、国 八木徹造

同 六、一〇、八 大野郡木本領家村 加藤龍庵
（改龍達）

88 適塾姓名録

東京・緒方富雄氏蔵

89 緒方洪庵書幅

双幅

宋の邵康節の七言絶句「何如吟」からとつたもので対句になっている。

「立身須作真男子」

「臨事無為浅丈夫」

90 緒方洪庵書翰

「笠原家文書」所収。笠原白翁宛書翰である。

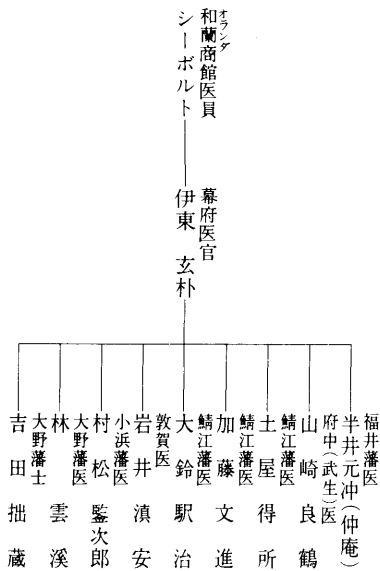
本館蔵

加賀市・稲坂謙三氏蔵
箕面市・藤野恒三郎氏蔵

一巻

(4) 伊藤玄朴の関係

〔伊藤玄朴学統図〕



91 伊藤玄朴書翰

三通

鯖江土屋家文書。鯖江土屋家は、同藩々医の家柄で、弘化年中、土屋得所が出て伊東玄朴の門人となった。得所は、名を篤之、樂齋・復堂などと号し、勝山藩奏氏から土屋家

(5) 佐藤順天堂の関係

に養子に入り、御取次格御匙頭まで進み、慶応三年(一八六七)五十四才で没した。

この書翰は師玄朴より門人得所にあてたものである。

鯖江市・土屋寛之氏蔵

千葉県佐倉の佐藤泰然は、蘭方有数の名家として、広く海内に知られていた。その高弟であった山口舜海は養子となって泰然の後をつぎ「尚中」と名を改めた。尚中は明治に入って、東京大学東校に出仕したが、後養父泰然の意志をついで、東京に一大病院を建設して、これに順天堂と名付けた。

佐藤家は、女子相続の家憲を守って、進が迎えられて三代を継ぎ、さらに本県美浜町の河合家から、達次郎が入って四代を継いだ。

達次郎は、順天堂を基礎として、これを医科大学に昇格させた。順天堂大学である。

なお、佐倉の佐藤塾には、福井藩の橋本左内、鯖江藩の土屋寛之などをはじめ、門人となって教導を受けたものが多い。

92 順天堂門人帳

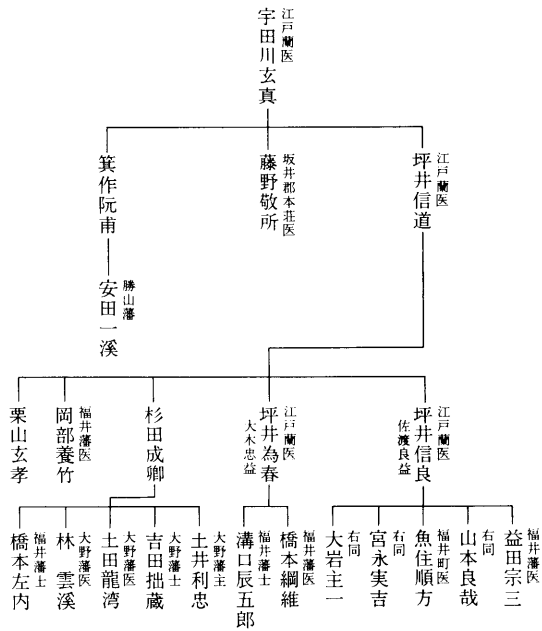
一冊

慶応改元丑四月日

順天堂大学図書館蔵

(6) 坪井信道・同信良の関係

〔坪井信道学統図〕



〔坪井信良〕

文政六年（明治三十七年（一八二三）〜一九〇四）

越中高岡で婦人科売薬を業とした佐渡家に生れる。十八歳の時、京阪に遊学して医学を修め、次で江戸の蘭医坪井信道塾に学んだ。信道はその才学を愛し、養子としたため、坪井信良と改名した。その後大阪に行つて、緒方洪庵の適々齋塾に入り蘭書を学んだが、養父信道の死亡により、江戸に帰つてその業を継いだ。嘉永六年（一八五三）、福井藩に召抱えられ、江戸定府の侍医として仕えることとなった。安政三年（一八五六）、済世館医学所教授として来福したが、翌四年には江戸にもどつてゐる。文久三年（一八六三）に職を辞したが、福井藩在職十年に及んでいる。在職中の安政四年幕府の蕃書調所出役教授を仰付けられ、の

ち西洋医学所教授に転じ、元治元年（一八六四）奥医師に抜擢された。明治七年（一八七四）わが国最初の医事雑誌を創刊したが、収支つぐなわず、翌年廃刊。余後はもっぱら著訳に従事した。信良の名が、従来福井県においてあまり知られていないのは、江戸定府で、しかもその在職期間が短かつた故であらうと思われる。

93 坪井信良書翰

十二通

これらの書翰は、信良が実家にあてたもので、これまで詳細な史料に乏しかつた福井藩と信良の関係を新たに補足する重要資料である。

中でも、四月一日付の書翰には、「拙塾近来大ニ賑敷相成、内生斗二十三人ニ及申候、就中今度福井藩中橋本左内と申者来り申候、年甫二十才頗ル深才篤厚、誠ニ頼母數人物、国公ニモ殊之外秘蔵之才子ニテ小子迄別段心付教授可レ致との命も御座候」とあつて橋本左内の非凡な才能に感嘆し、賞揚しており極めて興味深い。

94 坪井信良書幅

一幅

高岡市・佐渡養順氏蔵

(7) 橋本左内

95 橋本左内書翰並びに処方箋。同綱常書翰幅

一幅

東京・藤野恒宅氏蔵

96 橋本左内書翰巻軸

二巻

福井市・竹内真一氏蔵

97 橋本左内書翰幅

二幅

福井市・竹内真一氏蔵

(8) その他の主要医師

98 田中適所遺墨

一卷

福井市・水島直文氏蔵

- 99 杉田成卿筆「洋舶図並びに賛」 一 幅
早稲田大学図書館蔵
- 100 杉田成卿筆「蘭文額」 一 面
大野市郷土歴史館蔵
- 101 杉田成卿著「万宝玉手箱」 一 冊
大野市・岩治勇一氏蔵
- 102 関 明霞遺墨 一 幅
本館蔵
- 103 半井仲庵肖像画並びに松平春嶽賛 二 面
福井市医師会蔵
- 104 半井家伝来トソ散の伝授書 一 卷
〔奥 書〕
于時正保三曆林鐘吉辰
昌蘭軒 瑞(花押)
岡本為竹法眼座下
- 105 半井仲庵書翰 二 通
京都市・宗田一氏蔵
- 106 山本瑞庵遺墨 一 幅
福井市・大岩守正氏蔵
- 107 鯖江藩医土屋家文書 八 点
福井市・宮崎 伝氏蔵
(①土屋裕筆「蘭書購入費受取状」 ②土屋家入門誓詞
③種痘規定簿 ④土屋裕筆「神診救急法」 ⑤今立郡患者
実験録 その他)
- 108 新宮涼亭遺墨 一 幅
東京・藤野恒宅氏蔵

第六 解剖の歴史

(1) 山脇東洋

109 解体図

〔跋文〕

一 卷

精傷乎強其極也、誕粗傷乎野其極也、闇噫貪精而深乎矯偽、軌
與守樸而不失其質、今図焉者、四乃所親、賭疑則闕焉、後之志士、琢
之彫之、得以成照乘之羨、則幸莫甚焉。

医官平安山脇法眼尚徳跋(印)

門人山田原浅沼佐盈代画(印)

京都市・阿知波五郎氏蔵

110 宝曆四年版「節用集」

(参考展示)

二 冊

大野市郷土歴史館蔵

(2) 福井明里に於ける明和六年の解剖

111 滅 鑑

一 冊

明和六年(一七六九)十一月十九日、半井彦、山室知将
の両名が、東明里の刑場で男の刑屍を解剖した記録である。
本邦初の解剖で古来の迷妄を解いたといわれる宝曆四年の
山脇東洋の解剖に遅れること十五年で、本写本附図の十三
対の肋骨、又大小腸の区別がなく、虫垂などがかけている
のは、当時の記録としては仕方のないこととしても、東洋
の記録として有名な「蔵志」の影響が極めて濃い反面、一
方ではそれを鋭く批判していることは注目すべきである。

東京・小川鼎三氏蔵

文久元年（一八六一）十月十三日小山谷伝所で男女二体の刑屍が解剖された時の記録で、正副二部が作られ、一部は濟世館に納められ、副本はこの図録を作った細井東陽家に所蔵されたことであるが、其後そのいづれかが小出家（京都市）の所蔵となり、その影写本が本書で文部省史料館に保存されている。小出家所蔵の原本は今のところ所在不明である。

本影写本で注意すべきことは、当時使用した参考書の内容を盗用しないで、自分達のみたままを記載して他説と比較論述している研究態度であろう。

126 解剖禁戒 文部省史料館蔵 一巻

文久元年（一八六一）十月十三日、小山谷伝所での解剖に立会った医師達の心得を記したものと思われる。

福井市・竹内真一氏蔵

(7) その他

127 キュンストレーキ男体 一本

128 キュンストレーキ女体 一本

キュンストレーキとは、オランダ語で紙製人体模型のことである。

男体は万延元年（一八六〇）福井藩が八百両で長崎の蘭館医を通してフランスより購入し、女体は明治二年（一八六九）に購入した。現在同種のもものは、金沢と長崎の両大にのこっているのみである。

当時の医学生は解剖学を習うのに刑屍を使ったものであるが、それも藩の嚴重な許可を要し入手困難であったので、やむなく、このような模型を使っていた。両体とも極めて精巧に出来ており、血管・神経・筋肉・臓器等にラテン語、フランス語で原名が付されている。

男体は一部腐蝕しているものの、おおよそ旧体のままであり、女体は一見新しく見えるが、これは昭和初期塗装修復されたためである。
長く福井市医師会に保管され、現在同会より本館に寄託されている。

129 ジョンソン人体解剖掛図 福井市医師会蔵 二幅

福井藩医学所濟世館旧蔵

130 大野藩医 松村矩明著述類 福井市医師会蔵 四冊

(1) 解剖訓蒙 (2) グレイ氏解剖訓蒙図 (3) 解剖適要 (4) 解剖適要図

大野市・岩治勇一氏蔵
福井市・竹内真一氏蔵

第七 種痘の歴史

131 笠原家文書 十五点

(1) 戦競録 (2) 公用留 (3) 牛痘鑑方 (その他)

本館蔵

132 笠原白翁書翰 七通

鯖江市・土屋寛之氏蔵
福井市・竹内真一氏蔵

133 除痘館誓約 一卷

福井市・国枝 隆氏蔵

134 笠原白翁所用「種痘器具」 一式

本館蔵

〔笠原白翁〕

文化六年（明治十三年）一八〇九（一八八〇）通称を良策、白翁と号した。足羽郡深見村（現在福井市）で生まれた。

白翁とは、牛痘のラテン語ハクシーネの漢訳「白神痘」からとったという。江戸で磯野公道について古医方を修め、福井で開業したが、たまたま加賀の山中で、蘭医大武了玄から西洋医学の優秀なることを知り、京都の日野鼎哉の門に入った。これが福井における蘭方のはじめで、松平慶永（春嶽）もその随筆「真雪草紙」で「西洋医学の越前に弘りしは、笠原良策を以て魁とす」といつている。また白翁は牛痘苗を幕府の力で輸入することを藩に請願し、藩主慶永は願書を閣老阿部正弘に提出した。嘉永二年（一八四九）にオランダ人が長崎に痘苗をつたえ、白翁の師鼎哉に届けられた。痘苗は福井藩公用のものとして、ていねいに取扱われ日野一門の苦心経営のすえ、ついに十一月二十五日福井にもたらされ、除痘館を開設して、種痘が実施された。以来藩民はいうまでもなく、近くは武生、鯖江、敦賀、大野、遠くは金沢、富山にも分苗、さらに江戸に受け継がれ、佐久間象山によって信州松代藩へまでも伝播された。江戸時代における白翁の牛痘法普及の功績は、佐賀藩の榎林宗健とともに高く評価されるものである。明治十三年（一八八〇）東京で死亡、享年七十二歳であった。

135 現在の種痘器具（参考展示）

一点

福井市医師会蔵

136 明治種痘済証

二十通

諸家蔵

137 明治種痘布令書

五通

本館蔵

138 種痘関係文献

五冊

- （①新訂牛痘奇法 ②引痘新法全書 ③痘草心得草 ④善那氏種痘発明百年記念会報告書）

福井市・竹内真一氏蔵

京都市・宗田一氏蔵

第八 本草関係史料

(1) 上田五兵衛商店所蔵史料

139 金匱丸 看板

一面

140 白沢由緒書

一幅

141 石川県福井医学所卒業証書

八通

理学・化学・数学等。明治十年代。

142 福井医学校試験問題

十五通

明治十年代。一問づつ小封筒に入れて、金沢より送られて来たもの。

143 福井医学校入学願書

一通

明治十一年

144 薬舗開業願

一通

明治十六年

145 薬舗開業免許証

一通

明治十六年

146 薬種問屋及込斤日限控

一帖

147 福井薬剤師会記録

一冊

明治二十二年

以上

上田五兵衛氏蔵

(2) その他の薬局・薬品販売店史料

148 本草綱目

三十九冊

福井市・松下勇二氏蔵

第九 近世医療関係資料

149 医家用駕籠

一点

大野市郷土歴史館蔵

150 薬 研（鉄製）

二点

敦賀市・立花正信氏蔵

福井市・広部信夫氏蔵

151 薬 研

一点

越前焼破片。江戸時代後期

福井県立陶芸館蔵

152 薬 籠

六點

諸家蔵

153 ランビキ

一点

武生市・関 弘道氏蔵

154 鋸（くすりきざみ）

一点

大野市郷土歴史館蔵

155 薬種店看板

一一面

大野市郷土歴史館蔵

156 膏薬鉢

一点

越前焼。江戸後期。

福井県織田町・北野七左エ門氏蔵

第十 明治時代

(1) 主要人物並びに若越出身他県医学校関係者資料

157 大岩大岩関係史料

五通

①明治五年文部省種痘術免許 ②福井藩の辞令 ③福井

県の辞令 ④会社病院の辞令 ⑤石川県医業免許証

福井市・大岩守正氏蔵

〔大岩 円〕

はじめ本立といった。兄主一に子がなかったため、その跡をつぎ医を業とした。のち福井藩に仕え、主として種痘普及に功績が大きかった。明治三十三年没。

158 八尾貫吾関係史料

七點

①八尾貫吾肖像写真 ②エルネスト・サトウ書翰 ③八尾貫吾筆長州征討「陣中日記」 ④明治三年医術開業免許書 ⑤八尾貫吾筆「骨格解剖図」写本 その他

〔八尾貫吾〕

福井県坂井郡春江町安沢の人、矢尾八兵衛の子であるが、一族中貫吾のみが、八尾氏を称した。はじめ福井藩医田代万貞に師事したが、後長崎に遊学してシーボルトにつき医学を修めた。明治四年上京して文部省に出仕、外国語学校病院医兼大学御用掛となったが、後浅草馬道町に開業した。明治三十二年没。

159 岩佐純遺墨

一幅

本館蔵

160 橋本綱常処方箋

一通

福井市・竹内真一氏蔵

161 橋本彦也（綱維）書翰

一通

鯖江市・土屋寛之氏蔵

162 土肥慶蔵遺墨

四幅

諸家蔵

163 土肥慶蔵手製抹茶碗

一点

福井県丸岡町・荒川 久氏蔵

164 土肥慶蔵自筆原稿

五葉

福井市・白崎得男氏蔵

165 土肥慶蔵著「世界梅毒史」ドイツ語版

一冊

大野市・岩治勇一氏蔵

166 土肥慶蔵著「世界梅毒史」日本語版

一冊

鯖江市・土屋寛之氏蔵

167 渡辺洪基書翰

二通

鯖江市・藤野恒三郎氏蔵

168 藤野徹九郎所蔵本

一冊

箕面市・藤野恒三郎氏蔵

(2) 維新戦役諸藩従軍医師関係史料

鳥羽、伏見の戦(明治元年一月)で政府軍の勝利は決定的なものとなったが、其後も抵抗をやめない旧幕臣とは北海道で、又会津藩を中心とする奥羽同盟軍とは東北の山野で戦斗が展開された。会津攻略の路は、裏日本では越後の新発田から津川をぬけ阿賀川に沿う坂下口と、長岡から越後山脈を横断する嶮道八十里越、六十里越を経て只見水系に沿って若松に入る長岡口の二本で、越後方面の戦斗は会津藩攻略の前哨戦(四月)であった。

当時福井藩は尊皇敬慕の微妙な立場にあり、出兵が遅れたが、越前藩医達の洋医学のレベルは高く、殆んど漢方医であった他藩を圧して縦横の活躍をした。彼等の殆んどは二十才台の青年医であったが、近代戦のはしりであるこの戦争で、軍陣医療の組織的体系化にも貢献した。

出陣藩医名
一番手

隊員96名 内 医師22名 6月25、26日出発

藩医名

浅野恭齊 橋本彦也 三崎宗玄 馬淵玄仙 細井專博
半井玄端 加藤謙山 安田弘庵 勝沢一字 村山三悦
橋本琢磨 山本良哉 小木言造 高橋頼升 原 道達
山本宗立 高井見龍 金田修輔 寛 楨造 奥田秀的
玉村坦哉 今井玄良

二番手(府中藩 本多隊)

隊員216名 内 医師4名 7月4日出発

藩医名

山崎良輔 大雲正意 三井養庵 江崎颯士

三番手

隊員23名 内 医師12名 8月26日出発
9月6日出発

藩医名

針谷雲沢 前波道巴 長尾順庵 大橋玄樹 栗崎道悦
魚住順方 真杉諒平 高桑道準 笠原健蔵 梅田謙齊
英 鼎造 芦野三省
交代勤務 9月?日

新宮涼介

○戦傷死数

戦死 8名

戦傷死 5名(柏崎病院1五泉病院1新潟病院2自宅1)

戦傷 36名以上 不詳

事故死 1名

病死 4名

不明死 4名

—会津征討出兵記より(松平文庫)—

169 大野藩従軍医師所用外科器械

(①外科器械 ②浣腸器)

二点

大野市医師会蔵

170 会津征討出兵記

「家譜」、「武田書翰」、「提筆記」、「村田書翰」、「府中兵進軍の誌」など三十三種の書目を引用作成したもので、出陣した藩医達の活躍も処々に点描されている。松平文庫所収。

一冊

福井県立図書館蔵

(3) 福井医学校の変遷

(福井医学校関係年表)

年号 (西暦)	主要事業
文化二年 (一八〇五)	福井藩医学所「濟世館」創立。

明治十二年 (一八八六)	福井藩校明道館(明新館と改称)管轄となり、医学所規則改正、所長橋本綱維。
明治十三年 (一八八七)	明新館より分離、西別院の根拠病院に医学所・除痘館併設、六月再び明新館に併合教則改正。
明治十四年 (一八八八)	廢藩置県、足羽県管理。
明治十五年 (一八七二)	再び明新館より分離、旧民政局跡(佐佳枝上町)に移転、所長高桑実。
明治十六年 (一八七三)	足羽県廢止敦賀県成立と同時に私立となり、諸経費は旧県庁より下附の基本金及び医師の役金、薬舗の献金等による。
明治十八年 (一八七五)	福井私立医学所は公立(敦賀県)となり、之に病院を附属す、校長は田川乙作。医学所仮規則なる。十月十五日福井公立医学所開校式典挙行。
明治十九年 (一八七六)	金沢医学所二等教諭馬島健吉福井医学所長兼病院長となる(石川県)
明治二十年 (一八七七)	二年制の略則医学科を併設。
明治二十一年 (一八七八)	公立福井病院を開設して医学所、私立病院を合併し五月七日開院式挙行。
明治二十二年 (一八七九)	公立福井病院竣工(佐佳枝上町、敷地千七百二十九坪、建坪四百九十坪余)
明治二十三年 (一八八〇)	福井医学所を廢して金沢医学所に合併し、実施の日迄授業は従前通りとの命が発せられる(石川県)。医学校は乙種となる。
明治二十四年 (一八八一)	福井医学所存続の上申。 福井医学所を福井病院附属医学教場と改称。東京大学医学部第一期生の河野衛院長に就任。

明治十七年 (一八八四)	福井病院附属医学教場が廢止され県立福井医学校を設置(福井県)。
明治十九年 (一八八六)	福井県医学校と改称。
明治二十年 (一八八七)	勅令第四十八号を似て、府県医学校の経費は明治二十一年以降地方税で支弁できなくなり、県立医学校の廢校相つぐ。
明治二十一年 (一八八八)	福井県医学校は第十六回卒業式挙行後廢止。

171 病院班次

明治四年、福井藩の各病院「龍(孝顕寺内)、旭(鎮徳寺内)、松(成覚寺内)の各枝病院、及び懸所(西別院内、根拠病院)」の医員名列である。笠原家文書所収。

172 福井医学校関係 布令・布達類

福井県議会議史編纂室蔵

173 足羽県庁絵図

明治四年十一月二十日の布告で、若狭越前は福井・敦賀二県となり、更に同年十二月二十日福井県は足羽県と改称された。

足羽県庁は元福井藩家老岡部豊後の邸を使用した。現在の福井市中央一丁目にあたる。その邸内南部に医学校があった。松平文庫所収。

174 明治十四年臨時県議會議事録

福井県春江町・矢尾要氏蔵

福井県立図書館蔵 一冊

第十一 参考史料（付追加史料）

- 175 朝倉敏景（孝景）肖像
重要文化財 一幅
福井市・心月寺蔵
- 176 朝倉義景肖像
重要文化財 一幅
福井市・心月寺蔵
- 177 松平春嶽所用舶載科学器械類並びに医薬関係手沢品
福井市・心月寺蔵 十五点
- 春嶽公記念文庫所収
- 178 中根雪江書翰
福井藩医浅野嵩山宛
本館蔵 一卷
福井市・原 多文氏蔵
- 179 象牙製印籠根付
銘宗明。薬研を使用する人物を彫出してある。
一点
福井市・原 多文氏蔵
- 180 金沢第四中学校一覽
金沢大学医学部図書館蔵 一冊
福井市・原 多文氏蔵
- 181 若栗章肖像写真
岡山病院二代院長
一葉
金沢大学医学部図書館蔵
- 182 金匱要略
宋版。端本。
一冊
岡山大学医学部蔵
- 183 奥村南山書翰巻軸
福井県春江町・矢尾 要氏蔵 一卷
武生市・奥村 誠氏蔵
- 184 産婦日々記
越前今庄の産科医赤星家の安永年間の診療日誌である。
一冊

患者の症例、その療法等、内容は詳細で興味深い。

- 185 薬用木白
福井県今庄町・赤星正一氏蔵 一点
- 186 薬用鉄鍋
福井県今庄町・赤星正一氏蔵 一点
福井市・宮崎 伝氏蔵
- 187 福井藩校「明道館・明新館・濟世館」旧蔵書籍類 二十点
福井市教育委員会蔵
- 188 華岡青洲口述筆記「青洲先生医話」
福井市・春日健一氏蔵 一冊
- 189 上田五兵衛商店所蔵史料（追加分）
①福井病院薬剤生辞令 ②天保三年石場組家帳 ③金匱丸壳弘許可状 ④壳買差延帳 ⑤第一回日本薬剤師連合会報告 五点

展示補助用主要パネル目録

- ① 古墳時代の水銀文化
② 古代における主要朱・水銀出土地
③ 三崎家系譜
- 三崎家は、黒丸城第二代朝倉高景の四男・三段崎彈正忠弼景を家祖とするが、医家としては、六代の安指が、還俗して朝倉氏に仕えた谷野一栢の養嗣子として、医業を継いだのに始まる。
- 第一代
安指 三段崎を三崎と改める。号松軒、これより後玉雲軒と代々名のる。谷野一栢の養嗣子となり医業を継ぐ。慶長十二（一六〇七）年没
- 第二代
宗晴 玉雲軒、正保二（一六四五）年没

第三代 玉雲軒、福井藩主松平光通侍医

宗益 元禄八(一六九五)年没

第四代 道庵 玉雲軒、篁齋

第五代 享保十八(一七三三)年没

宗伯 玉雲軒、第三代宗益次男

第六代 享保十九(一七三四)年没

杏仙 玉雲軒、第四代道庵の嫡子

第七代 元文四(一七三九)年没

忠庵 玉雲軒

第八代 延享三(一七四六)年没

道仙 玉雲軒、第六代杏仙三男

第九代 寛延二(一七四九)年没

杏伯 玉雲軒、第七代忠庵の嫡子

第十代 宝曆十三(一七六三)年没

杏宅 玉雲軒、三崎氏中興、同族三崎陰左衛門時常の未孫

第十代 寛政七(一七九五)年没

安元 玉雲軒、恭齋

第十二代 道生 玉雲軒、大関新五左衛門三男、安政三(一八五六)

第十三代 年五月福井藩表医師出仕。文久元(一八六一)年没

英順 玉枝 準太郎 準一(当主)

④大月家系譜

⑤南蛮外科栗崎家一族系譜

⑥越前栗崎家系譜

⑦寺田家並びに尾張栗崎家系譜

⑧曲直瀬道三学統 遠敷郡名田庄 小野正伯家系図

⑨大野藩の阿蘭陀外科 林家系図

⑩吐法について

⑪奥村南山学統図

⑫岡本一抱関係系図

⑬華岡青洲門人帳 若狭・越前出身者抜萃

⑭伊東玄朴学統図

⑮緒方洪庵学統図

⑯坪井信道学統図

⑰杉田玄白学統図

⑱大野洋学館旧蔵「蘭書」について

⑲蘭日辞書の系統図

⑳敦賀半島の産小屋

㉑(I)産小屋見取図(敦賀市常宮)

㉒(II)産小屋見取図(敦賀市浦底)

(敦賀半島の産小屋)

敦賀半島の東側に点在する各部落(二村・名子を除く)には、おの／＼一棟の産小屋が残っている。産小屋は火を神聖視する漁師達が、火を穢した時にくる海神の祟りを恐れての別火の思想からはじめたものとされている。妊婦は出産間際に産小屋に籠り、出産後三十日間をここで過した。その間、炊事はすべてこの小屋で行ない(別火)、食料品・水は本屋(自宅)・及び近親縁者から差入れた(小屋見舞)。産後三十日をへて本屋に帰るが、その後も二十日間は産小屋で炊事し、その期間を経て、ようやく本屋の火を用いることが出来た。

戦後十年程は、まだ産小屋が利用されていたが、現在はこの風習はすたれ、小屋も荒れ果てている。

㉓初期の種痘法

㉔本邦に於ける牛痘種痘伝来

㉕薬籠の常備薬

㉖文化二年十一月二十六日刑死人(男)解剖場所の略図

㉗濟世館の沿革

㉘福井医学学校のうつりかわり

㉙明治戊辰戦争における越前藩医の活躍

㉚明治戊辰戦争における越後口戦斗要図

近時、抗炎症の作用機作の一つとして
注目されている

生体膜安定化作用の 強力な

当社研究・創製品

新発売

〈新〉鎮痛・抗炎症剤

ノンフラミン[®]カプセル

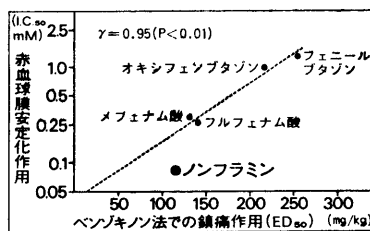
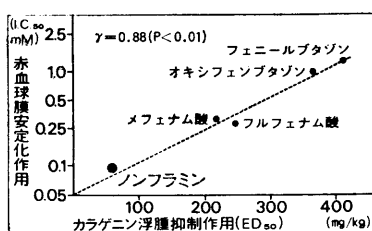
一般名＝塩酸チノリジン

※
ノンフラミンの生体膜(ライソゾーム膜、赤血球膜、
血小板膜など)安定化作用は、抗炎症作用・鎮痛作用
と相関関係のあることが、基礎実験で明らかにされ
ています。

※ライソゾームとは…

1955年に発見された生体の防衛機構にあずかる細胞内顆粒で、炎
症もライソゾーム膜が不安定になりライソゾーム内の水解酵素な
どが放出されて起こることが明らかになりました。

●生体膜安定化と炎症と鎮痛の相関性



〈包装〉ノンフラミンカプセル(50mg):
100カプセル 500カプセル 1000カプセル

●本品には製品識別コードを採用しています。
製品コード番号＝Y-NO50

〈薬価基準新収載〉昭和47年2月1日実施

1カプセル (50mg) ￥28.00



製造＝吉富製薬株式会社
販売＝武田薬品工業株式会社

Banyu

20錠

抗動脈硬化剤
抗キニン性・抗遅延型炎症反応因子性
血管透過性亢進阻止剤

250mg

アンチニン錠 ANGININ

1錠中

2,6-ピリジンジメタノールビス(N-メチルカルバメート) 250mg

LOT NO. ASA-29

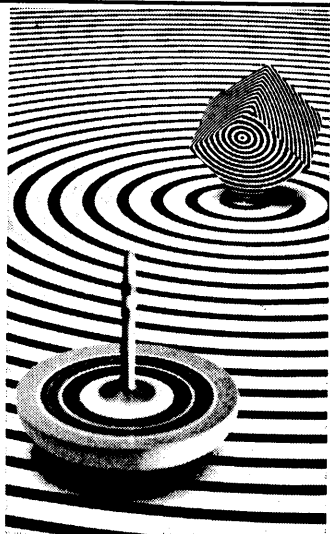


萬有製薬株式会社
東京都中央区日本橋本町2-7



塩野義製薬株式会社

大阪市東区道修町3-12 郵便番号541



三共が開発!!世界47か国に特許出願中
安全域が広く、使いやすい
新マイナートランクライザー

セレナル® *Serenal*

一般名: Oxazolam

薬価基準に新収載!!

剤型	単位	薬価基準	包装
5mg錠	1錠	6円30	100入、500、1000入
10mg錠・カプセル	1錠・	12円30	錠:各100入、500入、1000入、5000入
20mg錠・カプセル	1カプセル	23円70	カプセル:各1000入、5000入
1%散	1g	12円30	100g、500g、1kg
10%散	1g	91円40	100g、500g

昭和47年2月1日より実施

- 神経症(不安神経症、抑うつ反応、心気症等)
- 器官神経症(心臓神経症、胃腸神経症)
- 心身症(高血圧、動脈硬化症、更年期障害等)

自律神経失調症に



7セー17

純国産
広範囲抗生物質

注射用カネンドマイシン



カネンドマイシンは弊社研究開発グループが開発した最も新しい広範囲抗生物質で、多剤耐性菌を含む各種のグラム陽性・陰性菌に強力な抗菌作用を示します。

〈特長〉

- 広範囲な抗菌スペクトラムを有します。
- 各種の多剤耐性菌に有効です。
- 殺菌的に作用します。
- 高い血中・臓器内濃度を示し、尿中排泄率も高度です。
- 非常に安定な抗生物質です。

〈適応症〉

ブドウ球菌・連鎖球菌・肺炎球菌・大腸菌・緑膿菌等のカネンドマイシン感受性菌による細菌感染症。

〈薬価・包装〉

注射用カネンドマイシン 1瓶200mg(力価) 600.00円



明治製菓株式会社
東京都中央区京橋2-8

炎症性の疼痛に、滲出・腫脹などの抗炎症に

全く新しいタイプの純国産非ステロイド製剤

〈一般名：メブリゾール〉

Mebron tablet

メブロン錠

新抗炎症鎮痛剤

メブロン錠は、第一製薬が開発した新しいタイプの抗炎症鎮痛剤で、これまでの非ステロイド性抗炎症剤とは全く異なるPyrimidiny lpyrazole系の純国産非ステロイド抗炎症剤です。中枢・末梢両面からの強力な鎮痛作用と非特異的な抗炎症作用を併せ持ち、しかも高い安全性を示すメブロン錠は応用領域がきわめて広範で、各科臨床医家に広くご使用いただける薬剤です。

特長

- ★まったく新しい化学構造を持つ国内開発抗炎症鎮痛剤です。
- ★速効かつ強力な鎮痛作用と、すぐれた抗炎症作用で、自覚症状を速やかに改善します。
- ★アミノピリンよりすぐれた鎮痛作用、フェニルブタゾン、オキシフェンブタゾンより強力な抗炎症作用を示します。
- ★高い安全性が確認されています。
- ★服用しやすい小粒のフィルムコーティング錠です。

臨床成績

疼痛・腫脹に対する効果
腰痛症、関節症、頸肩腕症候群、骨折、挫傷、術後などの総合成績。

	薬剤	例数	有効率
鎮痛効果	メブロン	123	100%
	Placebo	94	50%
抗腫脹効果	メブロン	81	100%
	Placebo	50	50%

適応症

- ★下記疾患の鎮痛・消炎
 - 腰痛症、頸肩腕症候群、関節症、神経痛。
 - 急性上気道炎(扁桃炎、咽・喉頭炎、感冒)。
 - 膀胱炎、子宮付属器炎、会陰裂傷。
 - 抜歯、智歯周囲炎、歯髄炎。
- ★手術および外傷性、感染性の鎮痛・消炎。

包装・新薬価

包装	新薬価
(50mg)100T・500T・1000T	1T 28円00

純良医薬  第一製薬

神経・筋疾患 手術管理に

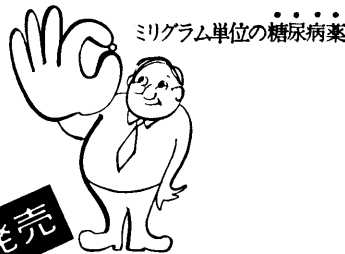
■より迅速・的確な効果をあらわす
オール活性型製剤

ピタノリン

静注用・カプセル 「タケタ」



武田薬品工業株式会社
大阪市東区道修町2丁目27番地



ミリグラム単位の糖尿病薬

新発売

2.5mg SU剤 オイグルコン錠

朝食後に1錠——1日1回わずか2.5mgでコントロール。
オイグルコンはFirst Choiceの新経口糖尿病治療剤です。

糖尿病治療は食事療法とオイグルコン



包装 100錠 500錠 3000錠 【文献・試供品謹呈】〒103 東京都中央区日本橋本町2-5 山之内製薬Eg 係へ

胆汁へ濃厚に移行し発熱に速効する

純合成の注射用新化学療法剤

ネオマイゾンG^注

チアンフ エニコール・グリシネート

新発売・健保新採用

1. 発熱する混合感染症に速効
2. 感染病巣へ活性型で移行する
3. 筋注・静注の両用が可能

健保薬価 (昭和47年2月1日より実施)

ネオマイゾンG注	250mg	IV	432.00円
ネオマイゾンG注	500mg	IV	760.00円
ネオマイゾンG注	1g	IV	1,360.00円



東京都文京区小石川4-6-10

エーザイ株式会社

札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡

疲労と心臓に
アスパラの効果



高峰秀子



疲労・心臓疾患の補助療法・肝臓機能障害に



アスパラ

糖衣錠 アスパラ・L 内服液 アスパラC / 疲れ目に アスパラ目薬



頭部外傷、脳術後、脳卒中の意識障害に

本剤は意識障害と密接な関係にある大脳皮質—脳幹網様体、視床下部—下垂体系に働きかけて、神経細胞の酸化—還元過程および糖代謝に影響をおよぼし、その機能的な障害ならびに代謝異常を改善し、意識障害ないし低下した意識水準を高揚するものと解されている。

●適応症
錠—頭部外傷後遺症におけるめまい、注射用—頭部外傷、脳術後、脳卒中の意識障害、頭部外傷後遺症におけるめまい。

●包装
錠(100mg) 100錠 500錠 1,000錠 3,000錠
注射用(250mg) 5バイアル 50バイアル (750mg) 10バイアル

●新薬価基準
1錠(100mg) 32.20円
1バイアル(250mg) 750.00円



脳代謝改善剤
ルシドリル®
塩酸メクロフェノキセート

P 大日本製薬
大阪市東区道修町3-25
提携 アンファース社(フランス)

健康はキョーリンの願いです

ヌトラーゼは直接生理的活性を発揮する

Thiamine diphosphate製剤です

コ・カルボキシラーゼ製剤

ヌトラーゼ

〔包装〕
5mg 50A / 10mg 10A.50A.200A.
20mg 10A.50A.200A / 50mg 10Vial.50Vial.
100mg 10Vial.50Vial.

〔薬価基準〕
5mg 102.00 / 10mg 186.00
20mg 306.00 / 50mg 620.00

 **キョーリン薬品**
東京都千代田区神田駿河台2-5

病院設計設備医科器械



富木医療器株式会社

福井営業所

福井市順化2丁目24-21 TEL (23) 3899

医療器械・医療設備

総合商社



放射線機器 医用電子機器 病院設備設計 臨床基礎機器

福井医療株式会社

福井営業所 福井市手寄2丁目4-28 電②4 0500～3 ②2 8300

金沢営業所 金沢市小立野4丁目3番12号 電⑥3 9222 ⑥1 2751

医療設備・医科器械・X線装置



松宮医療器株式会社

福井市花堂町1丁目43 電話(0776)代表⑧4046番

医療器械・医療設備

伊藤医療器株式会社

代表取締役 伊藤 一 芳

福井市文京4-8-11 (福井大学前)
TEL 24-6416(代) 夜間専用24-5870

総合印刷

大一印刷株式会社

福井市南四ツ居町18 TEL 54-5368(代)
取引銀行 福井銀行松本支店

河和田屋印刷株式会社

福井市一本木町88 TEL 23-3333(代)

東京本社	東京都板橋区大山金井町45	電話03(956)1989・1998・6998
大阪本社	大阪市城東区北中浜町4-66	電話06(961)(代)3751
金沢本社	金沢市玉川町15-7	電話0762(62)(代)7600
神明支店	福井県鯖江市神明町1-5-13	電話0776(51)1029

いつも頼りになる銀行

福井銀行

福井県下73店舗 石川県下7店舗 大阪府2店舗
東京・名古屋・京都・岐阜・富山

福井市順化1丁目1-1 TEL(0776)24-2030(代)

福井県医師会館内

福井県医師信用組合

理事長 吉田 順一

福井市大願寺町9 TEL(0776)24-6793

あすの印刷をつくる



 創文堂印刷株式会社

福井市日之出3-3-29
TEL22-1313 〒910

あ と が き

4年前県医学史編纂の際、史料の所在を略々確認し、更に昨秋医師会館落成時一部展観して好評を得たが、尚一般会員への周知と、記録保存の徹底に欠ける恨みが残った。剩え最近の一般の風潮は、医界に対し色々な疑惑をなげかけているように見える。この際、福井の昔にもこんな立派な医学があったということを一般の人々に知って貰い、若い会員の方々に理解して頂ければ幸いと、「若越医学史展」を計画した。約半ヶ年の準備と県内外の所蔵者の方々の絶大な御好意と御援助で、181点の史料（細別すれば数百点）を得て、若葉萌ゆる4月29日開幕、約1ヶ月間展観し、その間中高校生や一般の人々に実物史料で解説に当り、又医史学会関西支部例会を開くなど、啓蒙と理解につとめた。そして略々所期の目的を達し得たのは、ひとえに歴史博物館の方々の昼夜をわかたぬ御努力、史料御提供の方々及び共賛の各位の心からなる御協力と御援助の賜と、ここに厚く御礼を申上げる次第である。

(竹内真一記)

昭和47年5月 発行

若越医学史展 解説総目録

編集 福井市立郷土歴史博物館
福井県医師会
福井市医師会
印刷 創文堂印刷株式会社

*Vita Brevis,
Ars Longa*

主催 福井市教育委員会
共催 福井県・市医師会
会場 福井市立郷土歴史博物館